

平成9年度 (1997)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
第3回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会

福井大会報告

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

福井大会開会式



来 賓



主 催 者



文部省 伊藤 嘉規 先生



文部省 河野 公子 先生



厚生省 橋口 真治 先生

講演会



講師 大橋謙策先生



報告者 右より
 北海道函館大妻高等学校教諭 池田延己
 岩手県立一関第二高等学校教諭 矢幅清司
 埼玉県立不動岡誠和高等学校教諭 落合光男

全体報告会



全国高等学校長協会家庭部会
 事務局長 堀内八郎

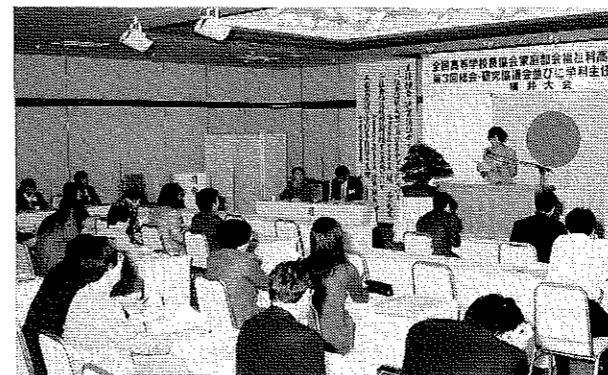
校長部会



主任部会

1. 学科設置校分科会

2. コース等設置校分科会



部会報告(閉会式)



千葉県立松戸矢切高等学校長
本田良夫



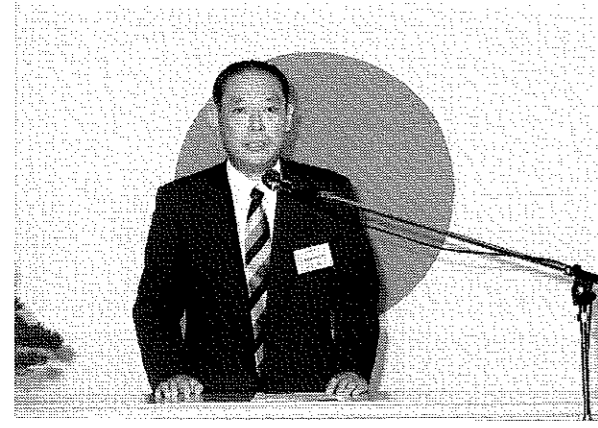
宮崎県立日南農林高等学校教諭
井戸川浜子



全国高等学校長協会家庭部会
理事長青木爽



全国福祉科高等学校長会
会長井上輝之



主管校 福井県立大野東高等学校長
前田孝



次回主管校 宮崎県立門川農業高等学校長
岩村隆博

目次

平成9年度 福井大会の概要	2
来賓・主催者・主管校代表者	3
あいさつ「希望の光りに輝く第3回総会」	
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 井上輝之	4
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員	5
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会総会	
並びに学科主任研究協議会会場地区一覧表	5
理事会	6
学科主任代表者会議	6
開会行事	7
講演会「子供・青年の生きる力と福祉教育・ボランティア活動 — 高校福祉科の未来を考える」	
日本社会事業大学社会福祉学部・社会計画学科教授、同大学院研究科長 大橋謙策	8
全体報告会	10
校長部会・総会	12
校長部会・研究協議会(その1)	13
平成8年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業報告	15
平成9年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業計画	15
平成8年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計決算書	16
平成9年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計予算書	17
主任部会・研究協議会(その1)	18
校長部会・研究協議会(その2)	24
主任部会・研究協議会(その2)	26
部会報告・指導講評・閉会行事	27
福井大会を終えて	
福井県立大野東高等学校長 前田孝	30
主管校の学科主任として	
福井県立大野東高等学校福祉教養科主任 小林香代子	30
公開研究授業報告	
函館大妻高等学校福祉科主任 池田延己	32
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約	35
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧	36
あとがき(諸連絡)	42

平成9年度 福井大会の概要

来賓・主催者・主管校代表者

- 1 研究主題 高等学校福祉教育の充実と発展をめざして
— ひびく・ひらく高校福祉教育の出発 —
- 2 期 日 平成9年10月7日(火) <理事会・学科主任代表者会議>
平成9年10月8日(水)・10月9日(木)
- 3 主催等 主催 全国高等学校長協会家庭部会
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
後援 福井県教育委員会
福井県高等学校長協会家庭部会
主管 福井県立大野東高等学校
- 4 会 場 勝山ニューホテル(勝山市片瀬2丁目114) ☎ 0779-88-2110

5 基本日程

第1日目(10月7日 火曜日)

15:00 15:30 17:00

受	理 事 会
付	学科主任代表者会議

第2日目(10月8日 水曜日)

9:00 9:30 10:15 12:00 13:00 14:00 15:00 17:00 18:00 20:00

受	開 会 行 事	講 演 会	昼 食	全 体 報 告 会	総 会	研究協議会(校長)	休 憩	教 育 懇 談 会
付					研究協議会(主任)			

第3日目(10月9日 木曜日)

9:00 10:00 11:30 12:00 13:00 16:10

研究協議会(校長)	部 会 報 告 指 導 講 評	閉 会 行 事	昼 食 (解散)	教 育 視 察 会場—永平寺—JR福井駅—会場
研究協議会(主任)				

6 参加校(者) 71校 (115名)

① 来 賓

- 文部省初等中等教育局職業課企画調査係長 伊藤嘉規
- 文部省初等中等教育局視学官 河野公子
- 厚生省社会・援護局施設人材課
福祉人材確保対策室 資格・試験係長 橋口真治
- 福井県教育庁教育審議監 上中良仙
- 福井県教育庁学校教育課長 森阪晃次
- 福井県高等学校長協会家庭部会長
福井県立美方高等学校長 矢尾正次郎
- 福井県教育庁学校教育課企画主査 田中清勝

② 主 催 者

- 全国高等学校長協会家庭部会理事長 青木 爽
- 全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長 井上輝之
- 全国高等学校長協会家庭部会事務局長 堀内八郎

③ 主管校代表者

- 福井県立大野東高等学校長 前田 孝

あいさつ

希望の光りに輝く第3回総会

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長

井上 輝之

北は北海道、南は九州、沖縄まで全国各地からこのように多数の先生方に御参集いただき第3回総会・研究協議会・並びに学科主任研究協議が盛大に開催でき成功裡に終了できましたことを大変嬉しく存じます。

特に文部省初等中等教育局視学官河野公子先生はじめ厚生省、そして地元教育関係者の先生方を御来賓にお迎えし、御臨席いただいていたのはこの上ない喜びとするところでございました。

参加していただきました校長先生、先生方には限られた時間の中でありましたから、意を尽くせない部分もあったと思いますが、中身の濃い研究発表に対し、熱心に研究協議に参加し、建設的な意見交換をいただき実り多い成果を挙げてくださいましたことに、厚くお礼申し上げます。

今、国をはじめとする教育の分野では、中央教育審議会、教育課程審議会、教養審、理産審など会議が目白押しに開かれ、この一年間に中間まとめなどがいろいろと発表され、教育改革の大きなうねりの中で、高校教育について、論議が活発になってきたことは、御案内のとおりです。

特にこの総会の開催の数日前に、理科教育及び産業教育審議会から「中間まとめ」が発表されました。その内容に「新教科『情報』『福祉』の創設等、社会の変化や産業の動向に適切に対応した教育の展開」とあり、このニュースは第3回総会に活気と福祉教育に携わる参加者に希望の光を与え積極的な意見交換の場となり素晴らしい会になりました。

中央審議会が、文部大臣から「21世紀を展望した我が国の教育のあり方において」の諮問を受けて検討する中で、高齢者問題を1つの章として設定したことは、誠に時宜を得たものと評価しております。

第二小委員会では、18回委員会で「高齢社会に対応する教育のあり方」についての検討があり、その結果が発表されました。私は、超高齢社会の

時代に突入する時に、スペシャリスト養成の必要性が触れられていないことについて、残念と言わざるを得ない思いを新たにいたしました。「高齢社会に対応する教育のあり方」を考えると、スペシャリスト養成の教育について、深く掘り下げた議論をして欲しかったと強く思ったものです。

このような教育改革の中で、私は福祉科教育の確かな法的必要性を訴えてまいりました。また、そのために、時期が熟したものと判断して、文部省初等中等教育局職業教育課長殿に対して7月14日付けで要望書を提出しました。

一方、校長会としては、中央法規出版株式会社と連携を図りながら、まずは準教科書「社会福祉基礎」の発刊を行い、今後続いて「高校生が学ぶ社会福祉シリーズ」全9巻の続刊の予定を進めております。また、指導書作成のための研究授業を全国3か所で行いました。

その後10月17日には、教育課程審議会の中間まとめの発表がありました。その内容は、理産審の答申が反映されたものとなっています。職業に関する各教科・科目において「高齢化の進展等に伴い、介護福祉士などの福祉に関する人材の養成の必要性に対応するため、教科『福祉』（仮称）を新たに設けることについて検討する。」とありました。

全国で福祉に関する学科等を設置する学校200校（加盟校111校）において、福祉科教育に携わる関係者の先生方は特に、この上ない光明を感じたはずで、戦後50年が過ぎ、高等学校も大きな変革期を迎えている時だけに、先生方の頑張りや期待するところ多様なものがあります。各学校が、それぞれの課題解決にむけて努力すると共に、中・長期展望に立った校長先生方の学校経営が望まれるところであります。

どうか、全国の校長先生方、福祉を学ぶ生徒たちのために、福祉教育の理想像に一步でも近付くよう御協力を願いたいと存じます。そのためにもここにお送りする第3回報告書が、活用されまことを切に願うものでございます。

おわりに主管校を賜りました大野東高等学校、前田校長先生、小林先生はじめ関係の先生方の御苦勞に、心から感謝と深甚なる謝意を申し上げます。ありがとうございました。平成10年7月に宮崎県で開催予定の第4回総会で会いましょう。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員

役職	地 区	氏 名	学 校 名	都道府県名
会長		井上 輝之	埼玉県立不動岡誠和高等学校	埼玉県
理事	北海道	井川 博己	北海道釧路星園高等学校	北海道
理事	東北	菅野 純孝	岩手県立一関第二高等学校	岩手県
理事	関東	本田 良夫	千葉県立松戸矢切高等学校	千葉県
理事	北信越	山田 邦男	石川県立田鶴浜高等学校	石川県
理事	東海	酒井 玲子	岐阜県立大垣桜高等学校	岐阜県
理事	近畿	村上 紘揚	兵庫県立新宮高等学校	兵庫県
理事	中国・四国 (当分の間)	丸山 哲朗	岡山県岡山女子高等学校	岡山県
理事	九州	岩村 隆博	宮崎県立門川農業高等学校	宮崎県
監事	関東	齊藤 二郎	茨城県立古河第二高等学校	茨城県
		勝田 文隆	神奈川県立綾瀬西高等学校	神奈川県

全国高等学校長協会家庭部会

福祉科高等学校長会総会並びに学科主任研究協議会会場地区一覧表

ブロック	北海道 東北	関東 北信越	東海 近畿	中国 四国	九州
1 平成7年			東海 静岡県三島高		
2 平成8年	北海道 釧路星園高				
3 平成9年		北信越 福井県大野東高			
4 平成10年					九州 宮崎県門川農業高
5 平成11年				中国 岡山県岡山女子高	
6 平成12年			近畿 ()		
7 平成13年	東北 ()				
8 平成14年		関東 ()			
9 平成15年					

理事会

平成9年10月7日(火)
15:30~17:30 勝山ニューホテル
光琳(2階)

はじめに

九頭龍川流域の緑と水のきれいな勝山市の越前大仏の近く、勝山ニューホテルの光琳の間において、家庭部会代表3名、地区理事7名、監事2名、福祉部会代表1名、主管校1名、計14名の列席のもと、第三回総会に関わる運営の一切について協議が進められた。

会の状況

司会(岩村隆博)。開会のことば(岩村理事)。あいさつ(青木爽、堀内八郎、前田孝、井上輝之)。

報告事項

- 1 平成9・10年度役員の確認
- 2 平成9年度加盟校報告
平成8年度98校。平成9年度111校。
- 3 平成9年度総会について主管校校長(前田孝)から説明
- 4 公開授業「社会福祉基礎」について
第一回7月8日 函館大妻高等学校
第二回9月2日 一関第二高等学校
第三回11月11日 岡山女子高等学校

協議事項

- 1 平成8年度会計監査報告・事業報告
- 2 平成9年度予算・事業報告
- 3 要望書について
「高等学校における福祉科教育の充実と振興についての要望書」をもう少し検討し、文部省・厚生省に提出する。
- 4 次期開催について
九州地区岩村理事から主管校(宮崎県立門川農業高校)、開催予定月日(平成10年7月22日、23日、24日)と地域の紹介があった。
- 5 平成11年開催について
井上会長より、中国・四国地区から私立岡

山女子高校に受けてもらった、と説明があった。

- 6 平成10年度第一回理事会について
井上会長より、5月28日(木)の予定と報告される。
- 7 その他
井上会長より(福祉科の家庭科部会からの独立は、時期尚早である。今問題にすることではない。福祉科の充実が先決である。)

学科主任代表者会議

10月7日(火) 15:30~17:30
特別会議室(5階)
司会進行 池田 延己

(小林・大野東)

福井大会実施要項の内容説明をする。9日の部会報告では学科設置校、コース設置校の2つの主任部会報告をまとめて発表することを井戸川先生にお願いした。

(池田・函館大妻)

公開授業に関連して教科書の社会福祉基礎は刊行した。残りの5巻、社会福祉制度、老人介護、社会福祉援助技術、社会福祉実習Ⅰ、Ⅱは来年1~2月に発刊できるだろう。副読本として県に届ける場合もあり、全国の先生方に承知しておいてもらいたい。社会福祉基礎の教科書を作り、大橋先生に公開授業を函館大妻、一関第二高と2回行い3回目を岡山女子高で行う。評判が良く2巻、3巻と発刊する毎に全国でやる必要がある。公開授業の報告は矢幅先生が全体会議です。

(矢幅・一関第二)

校長会で主任部会の中での委員会組織が認められれば、今後の指導書や参考書作成等の研修委員等がスタートできる。

(池田・函館大妻)

来年度の宮崎大会にむけて調査、広報等の各委員会組織が必要である。全国的な調査集計を今回したい。アンケート内容の確認をする。

(矢幅・一関第二)

毎年、継続的にアンケート調査をする必要があ

る。別件で岩手県立大学社会福祉学部新設に伴う福祉科卒業生枠があるので全国から多く受けてほしい。

(池田・函館大妻)

まとめ(大会日程、公開授業、アンケートの継続)

開会行事

10月8日(水) 9:30~10:15
万葉・光琳(2階)
司会進行 山田 邦男

- 1 開会のことば
北海道釧路市立釧路星園高等学校長
(井川 博己)
- 2 主催者のあいさつ
全国高等学校長協会家庭部会理事長
(青木 爽)

多数の来賓のご出席を賜り、また全国各地より多くの先生方の参加で本会が開催できることを、主催者として喜ばしく思う。

「理科教育及び産業教育審議会」からの中間まとめの中に「新教科情報・福祉の創設」とある。新しい教科「福祉」の創設は誠に意義深いことであると同時にこれからが大変である。

- ・具体的な学習内容をどうするか。
 - ・教科「家庭」等における内容との関係をどうするか。
 - ・専門教育に関する教科「福祉」を学習した生徒の進路の在り方をどうするか。
- こうした問題が具体的に検討されると思われる。

この点からも、この研究協議会の開催の意義は大きい。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長
(井上 輝之)

「理科教育及び産業教育審議会」の中間まとめの中で、学習指導要領での福祉科の位置付けの進展がみられた。

教科書(準教科書)も第一巻「社会福祉基礎」が刊行され、今後も続けて刊行される予定である。指導書も準備中である。

福祉科教育の準備が少しずつされているので、先生方も生徒の夢と希望の実現のため努力して欲しい。そして理想に一步でも近づくよう先生方と一緒に努力したい。

3 来賓祝辞

文部省初等中等教育局視学官(河野 公子)
福祉に関する教育がいろいろなレベルで充実してきている。関係の先生方のご苦勞を心から労いたいと思っている。

課題を一步ずつ解決し、充実して行くというのが、新しい学科の苦しみでもあり、楽しみでもある。

今、求められている高齢社会を生き生きと生きていく人間を、どうやっていくのか。という第16期の審議会で第2次答審に掲げられた、総ての生徒がどう高齢社会を支える人間になれるか、というビジョンと、もう少し上を行く業として関わる人材の育成を含めたその部分を両方整えていくことで、今後の高齢社会を生き生きと過ごす社会を作っていける人間を育てることができないのではないか。

それぞれの学校が抱えている課題を解決しながら、充実向上を図ろう、というのがこの会の目的である。この会がますます充実発展していくことを期待している。

厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室資格・試験係長 (橋口 真治)

厚生省として、介護福祉士の法律を立ち上げて10年たった。福祉科高校の国家試験の合格率は50%近くになってきている。

福祉を考えたとき、地域福祉が大事である。高校は地域の核になる。意義深いことである。ゆとりある教育には厚生省で定めている各カリキュラムを消化するということはきびしい状況であるという。

今後、検討していきたいと考えている。

福井県教育庁教育審議監 (上中 良仙)

戦後の経済成長・医学の進歩により日本は世界の最長寿国となっている。

高校教育では高齢者対策として福祉科の設置が進んでいる。本県でも2校に設置され順調な歩みを続けている。今後も福祉教育は重要となってくる。福祉科の期待は大きい。しかし問題・課題は多い。関係の先生方が話し合いの場をもたれることは意義深いことである。その成果に期待をしたい。

4 来賓紹介

5 主管校

福井県立大野東高等学校長

(前田 孝)

6 閉会のことば

兵庫県立新宮高等学校長

(村上 紘揚)

講演会

平成9年10月8日(木)

「子供・青年の生きる力と福祉教育・ボランティア活動—高校福祉科の未来を考える」

講師

日本社会事業大学社会福祉学部・社会
計画学科教授、同大学院研究科長

大橋 謙策

プロフィール

経歴 1973年東京大学院教育研究科博士課程修了

専門領域 地域福祉論・社会教育(福祉教育)

著書 「地域福祉の展開と福祉教育」全社教
「高齢化社会と教育」中央法規
「学校における福祉教育実践Ⅱ・中学校、高校」

光生館

他多数

司会進行 丸山 哲朗

講師紹介(謝辞)

井上 輝之(会長)

はじめに

- ・日本社会事業大学の紹介
- ・10年余り前からの高校福祉教育とのかかわり
- ・「高校生が学ぶ社会福祉シリーズ」を刊行するねらい
- ・テーマの設定では高校福祉科の教育内容・教育方法と限定せず、広く一般の普通高校の経営のあり方を考え、青年の生きる力と福祉教育という問題とどのような意味合いがあるのかを考えていく。

1. 子供・青年の生きる力、親になる学力と発達課題

1970年以降、子供の発達が従来の“今のこどもは”という慣用句では解決できない大きな歪みがでてきている。①対人間関係能力、自己表現の脆弱化、②社会的有用感、自分が必要とされている実感の喪失、③集団に支えられているという気持ちが希薄である。人間関係の希薄さを考えないと学校不登校・いじめ等の問題は解決しない。④物事を成し遂げる成就感、達成感の喪失、⑤生活技術能力の脆弱化、以上の5つの発達の歪みを解決するためには福祉教育が必要なのではないか。よく福祉教育を高齡化社会を支える担い手と考えられているが、私は、それも重要であるが、子供・青年の発達の中で歪みを是正する有力な教育方法が福祉教育ではないかと考え、'70年代からこの福祉教育のことを一貫して指摘してきた。第15期中央教育審議会、文部事報で平成8年8月臨時増刊号にも子供・青年の発達の歪みを指摘している。子供のストレスでは「夜眠れない」、「疲れやすい」、「朝は食欲不振」、「なんとなく大声を出したい」、「なんでもないのでイライラする」があり、これらの問題は学校教育以前の問題で親・学校を含め地域の問題である。これらの問題は第15期中央教育審議会に添付されるほど大きな問題であり、このままおいて、高齢者・障害者と共に生きましようと言っても屋上屋を重ねるような失敗ともなりかねない。

総務庁が5年ごとに行っている「世界の若者の意識調査」の結果、世界の中で日本の若者の

価値規範は、社会福祉の水準が誇れるとは思わず、親の面倒は看ないということである。高齡化社会の問題を考えると、この点を深刻に考えなければならない。また、家庭・学校・地域に愛着がない、親・子供・先生がイライラしている状況で問題行動は起こるべくして起こった。

福祉教育は高校の福祉科だから、マンパワーだから必要だということではなく、子供・青年がおかれている状況がよくないのであり、これをどうしていくかと真剣に考えていく必要があるのではないか。このような点から今回の中教審の問題提起をどう実践に生かせるか、進めていかなければいけないと考える。

戦後教育は戦前の複線型の教育体系を反省するというところから始まり、あまりにもリニア型、直線型の教育体系を作ってしまった。しかし、最近では通信制の大学院、来年には放送大学が衛星放送を使って全国展開する事を考えると、従来のリニア型からリカレント教育・参加交流型の学習スタイルが21世紀には必要ではないか。ここ10年間で高校福祉科を作る時には考えられないような多様な生涯学習システムが出来始めてきたが、リニア型の教育体系を基にした進路指導は果たして良いのか。今や規制緩和の時代であり、多様化の時代である。にもかかわらず、教育が一つの能力観でみてしまうことは果たして良いのか、見直すべきである。

2. イギリスの青年教育の動向等とコミュニティ・サービス

イギリスも子供・青年の発達の歪みは早くから指摘される。'63年「ハーバーバ・フューチャー」というニューサム・レポートでは地域の成人の実際生活にふれる必要性を指摘している。'60年コミュニティ・ボランティア・サービス、'68年ヤング・ボランティア・フォース・ファンデーション、'96年には教育とコミュニティにおける価値観の全国フォーラムがもたれ、中間報告では教育カリキュラムの一貫として体験的実践活動を行わせる必要があると出されている。日本の子供・青年の状況とイギリスの状況・対策の考え方は似ている。

3. 子供・青年の福祉教育で獲得される価値と課題

①障害児(者)・乳幼児など人間発達の可能性の感動体験、機会と人間への信頼“人間は発達の可能性があること”を今の若者達に理解させたいし、信じさせたい。②教育も福祉も個別にみなければいけないのに、まず集団で捉えて集団から外れるとラベリングをしている。そこで福祉教育は一人ひとりの発達をみる良い機会であり、一人ひとりの違いをみる良い機会である。また、障害者・高齢者と接する中で援助が必要になるわけで、その時に自分が社会的有用感を実感できる機会がある。社会福祉問題への関心と理解を深め、「生きる力」を豊かに身につけさせることに繋がるのではないか。一人ひとりを大事にすることは逆に言えば、自分の自己実現を大事にしていくことではないか。

今までの社会福祉は“上げ膳、据え膳”の福祉であり、慈善的感覚であったが、これからの社会福祉は、自己選択・自己決定・自己責任がキーワードである。その際に私が重視しているのは、フランス市民革命の中で提起されている“博愛”の考え方である。自由・平等を成立させるためには博愛が必要であり、博愛の精神を思想としてほしい。

4. 戦後、福祉教育実践の歴史・到達点

5. 社会福祉のマンパワーの動向と高校福祉科の位置

近年、公立・私立大学での福祉系大学・学科の増設、日本社会事業学校連盟の加盟101校(内参加30校)が、1学年13,000人を越える卒業生を出し、介護福祉系の専門学校253校、高校の福祉科も加盟校・非加盟校を合わせ、111校である。中学校の進路指導の先生に「社会福祉の仕事をするときは、社会福祉の専門教育は生涯学習の視点で捉えてほしい。」と提言してほしい。介護福祉士の資格取得の為の勉強というよりも、結果として、それが付いてくるくらいの関心と感動を青年達に与えてほしい。21世紀の社会システムの基本をなす領域を学習していること、障害者・高齢者と接する中で自分の人間

観を見直し、自分も豊かに生きていく自己位置づけの旅なのだと言え、青年達に伝えてほしい。従来の高校教育の教育課程にこだわらず、少し知恵を出し合ってもいいのではないか。我々が柔軟にやってみて、それを文部省に提言していくことも良いのではないか。私自身、文部省の高等教育局医学教育課でやっている21世紀医学・医療懇談会の協力員である。福祉の分野だけでなく、医療と看護と社会福祉の3分野を繋げて相互乗り入れの時代である。社会人がもっと医師になっても良いという時代であり、高校福祉科は多様な可能性をもっているのではないか。

冒頭に述べたように日本社会事業学校連盟の第25回セミナーが12月にあるので、この機会に繋がりをもちたい。私は日本福祉教育ボランティア学習学会の会長をしており、年報「福祉教育ボランティア学習の理論と体系」もでき、今年3年目で会員が450名である。関心がある方はお問い合わせ下さい、ありがたい。

質疑応答

Q. 理産振の中間まとめの発表の中で「福祉専門高等学校構想」があるが、福祉高等学校という職業学科の高等学校専門高校の位置づけと福祉教育についてどうか？

A. リニア型教育体系が変わってきたことを考えると、高校福祉はもっと分化、特化した形での高校があってもよいのではないか。その際には生涯学習の視点にたつて、どういう基礎的なことを学んでいくのか、自己完結ではなく、リカレント教育的ことを自分で求められる教育課程が必要である。

Q. 高校福祉科の多様な可能性について具体的に。

A. 高校福祉科の中身が介護だけでなく、対人サービス・対人ケアに関わる分野であってその枠に介護・保育等があればよいのではないか。また、週5日制にかかわって社会教育システムづくりが今後の課題である。

謝辞 井上 輝之(会長)
大変お忙しい中、講演して頂いてありがとうございました。高校福祉科の先生方には「社会福祉基礎」を振り返り、目をとおして頂き、講演会の中身を先生方の視野の血や肉にして頂きたい。福祉を教える教師の意図にしてほしい。

全体報告会

10月8日(水) 13:00~14:00

万葉・光琳(2階)

司会進行 酒井 玲子

1 理事会からの報告

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長 井上 輝之

— 1時15分開会 —

理事会は年2回開催される。

第1回は、5月22日 全国高等学校長会のあと、理事全員の出席で開催。

- 1) 役員選出
平成9、10年度理事選出・・・本日承認
- 2) 関係省庁への要望——2年に1回ずつを目標
平成9年度の要望起草委員は次の3名
岐阜県大垣桜高等学校長
千葉県松戸矢切高等学校長
岩手県一関第二高等学校長
学科主任協力委員 池田 延己
事務局 落合 光男
- 3) 平成9年度加盟校 本日までに111校

第2回は、10月7日

- 1) 役員確認。加盟校確認。
- 2) 公開授業の経過報告。
- 3) 会計、事業報告。要望書起草。
- 4) 平成10年度、11年度の本会の開催について。
平成10年7月22日~24日

九州 宮崎にて 4ヶ校協力で開催

平成11年度は中国四国地域担当

岡山女子高等学校を主管校で開催予定

2 全国高等学校長協会家庭部会からの報告

全国高等学校長協会家庭部会
事務局 堀内 八郎

- 1) 全国高等学校長協会家庭部会の歴史と現状
昭和26年 5月 設立総会 加盟23ヶ校
30年 加盟 360ヶ校
63年 加盟 2381ヶ校
平成元年 加盟 2457ヶ校(学習指導要領改訂)
9年 加盟 2683ヶ校(福祉科や工業高校)
この間に
昭和35年 家庭科技術検定(被服、食物)開始
全国高等学校長協会認定
昭和43年 全国高等学校家庭科教育振興会
(公益法人財団)設立

家庭科技術検定の運営を主とする。
家庭科教育の振興も図っている。
事務局設置、会館も建設。
※全国で16の高等学校長協会部会があるが財団は工業、商業、家庭。
家庭科技術検定の受験者は被服食物の1~4級合計、平成元年 54万人
以後 学科改編等で減少傾向に
平成7年度より文部省認定となる。
平成8年度 34万5千人となる。

- 2) 保育技術検定について
平成5年度より財団で保育技術検定を始めた。文部省後援
これは高等学校卒業での保育免許受験が平成8年度より無くなる為に保育を学ぶ生徒達の目標やりがいを考えて始めたものである。
初めは1~3級だった。
5年目を迎えた今年度大幅改訂した。
1~4級とし、種目別受験も可能に、実施年2回、1次と2次に。
受験資格家庭、保育、福祉履修者、

この検定の受験状況は
本年1次1908人(1~4級計)種目別254人
2次申し込みが多くなり全体で3393人

社会福祉と保育とのつながりを考えて、多くの学校で受験して欲しい。

検定の内容についてはプリント参照
問い合わせは 東京飯田橋の本部 あるいは
埼玉県不動岡誠和高校 生明 照子先生に

- 3) 課題検討委員会
文部省委託事業 産業教育新科目講習
介護、アパレル・・・各4日間
情報処理教育担当者講習・・・10日間
※介護福祉講習は本年度より、基礎講座と専門講座の二講座開講した。基礎講座30人定員の所に60人の申し込みがあり、専門講座にまわってもらった人もいます。

3 福祉科事務局からの報告

埼玉県立不動岡誠和高等学校
教諭 落合 光男

今日のこの福祉科全国大会の盛況振りを見る時良寛さんの「天上大風」の言葉をくりかえし思い出している。

今「福祉の大風」がおこっている。
この気流に乗ろう。

思い起こせば、平成5年、不動岡誠和高等学校が福祉科の文部省研究指定校になり、その報告会をやった際に、春日部のホテルに集った参加者達が「全国連絡会がぜひ必要」と話しあったのがはじまりであるが、5年間でこれだけの成長をみた大会になった。

初め73ヶ校でスタート。昨年98ヶ校、今年は新加盟11ヶ校、一部入れ替りもあり現在111ヶ校。

社会のニーズ、時代の波も押し寄せている上に全国の会員の熱意が大きい。

実際にはいろいろな問題も抱えている。

特に教科書問題も大きいですが、今年は「社会福祉基礎」の教科書完成に添って監修者の大橋先生の公開授業も行なわれ、指導書の作成も進んでいる。

また施設実習の謝礼を調査した結果をみると、1日108円から2500円まで幅があり、平均824.5円であった。

この基礎調査もこの会の大事な活動で、昨年は岩手県一関第二高校矢幅先生がまとめてくれた。

基礎調査はこれから毎年4月にアンケートをとり、改善の為に資料作りとしていきたい。

昨年度、加盟校の卒業生数2138名

うち進学43.4% 就職49.4%であった。

施設実習の問題点として、感染症を含めての保険への加入や保障関係の件がある。この保険ではウインターツールスイスなどがある。

介護福祉士国家試験の二次試験合格率は49%になった。先進校から合格に向けての指導方法を学ぶようにしてほしい。

福祉科で国家試験受験校と、コース制で未受験校とではいろいろ違った課題を持っている。

今年のこの大会ではその事に対応して、分科会を持つようにした。

4 公開授業について

1) 北海道函館大妻高等学校 教諭 池田 延己
公開授業に関しては資料を見ること。

福祉科用の教科書の刊行について説明。

今年度4月より、第一巻「社会福祉基礎」刊行
全国で採択、使用中

現在 二～六巻の準備中で主担当者は次のみなさんになっている。

「社会福祉制度」・・・ 矢幅 清司

「老人介護」・・・ 清水幹夫

「福祉援助技術」・・・ 松本寿子

「社会福祉実習1」・・・ 保住芳美

「社会福祉実習2」・・・ 池田延己

10月末原稿締切り 11月に編集委員会

来年2月に 二巻～六巻 一斉に出版する予定

2) 岩手県一関第二高等学校 教諭 矢幅 清司

「社会福祉基礎」の教科書を効果的に利用出来るように監修者の大橋 謙策先生の公開授業を三

回、三ヶ校で計画した。

第1回 7月8日 函館大妻高等学校にて

第6章 地域支援

テーマ「障害者も地域で暮らしたい」

対象 福祉科1年生 時間100分

内容 一人の人間として幸せを求めている。
施設に閉じこめない。ケアだけでは十分でない、自立支援自己決定などを。

参加者 40名

第2回 9月2日 一関第二高等学校にて

第9章 バリアフリー

テーマ「バリアフリー社会の創造と私たちの人間観、生活観」

対象 福祉科2年 2時間連続授業

内容「～らしく ～のくせに」などから、心のバリアを考える。

物理的バリアより心のバリアが大きい。

参加者 57名

第3回 11月11日 岡山女子高等学校予定

14時05分 終了

校長部会・総会

10月8日(水) 14:10～17:00

光琳(2階)

〔総会〕

司会進行 村上 紘揚

1. 開会のことば

丸山 哲朗

2. 会長挨拶

井上 輝之

加盟校の45名の校長先生のご出席をいただき盛大に総会ができることを嬉しく思う。5月22日の第1回理事会で役員改選のご承認をいただいた。北海道大会で独立の件については時期尚早と回答したが、いろいろな面から検討してもまだ時期尚早である。もう少し自助努力しながら

らこの会の充実に努めて行くべきかと思う。

課題が多く、1つは法的な整備である。国の動向を受けながら現場の先生方に課題解決にむけてあるいは意識改革を我々校長としてはリーダーシップを発揮して行かなければならない。

3. 議長選出(井上会長を議長とする提案が了承される。)

4. 議事

〈報告事項〉

(1) 平成8年度事業報告(事務局・落合 光男)

(2) 平成8年度決算報告(事務局・落合 光男)

(3) 平成8年度監査報告(本田 良夫)

監査の結果、適正に処理されていることの報告があり承認された。

〈協議事項〉

(1) 平成9年度事業計画案

(2) 平成9年度予算案

① 昨年から学科主任代表者会議を承認したが、その会議費の予算化がないため暫定的に予備費で配慮する点を理事会は継続審議とし、本日の提案となっていることを承知してほしい。(会長)

(事業計画、予算が承認される。)

(3) 平成9年・10年度役員選出、役員紹介(承認される。)

(4) 要望書の検討・協議

① 厚生省への要望1は、文部省との連携事項とのことで4つ挙げた。もう少し選りすぐり焦点化したい。(酒井玲子)

② 文部省企画調査係長伊藤先生からこの要望書について、ご指導いただきたい。

(井上会長)

(文部省 伊藤 嘉規先生)

2番めの厚生省との連携をご要望をお聞きしながら、今後厚生省と検討して行きたい。

・校長会総会の総意で要望書の提出を承認されたと認めさせてもらう。(井上会長)

5. その他(松尾・久留米築水)

平成10年度産業教育フェアは福岡大会となり従来看護の中の福祉から福祉部門が独立する。

6. 閉会のことば

丸山 哲朗

校長部会・研究協議会(その1)

研究協議テーマ

「福祉科の諸問題について——入口・内容・出口」

司会進行 菅野 純孝

本田 良夫

1 入口

埼玉県立不動岡誠和高等学校長 井上 輝之

(1) 学校の概要

平成3年福祉科設置。高齢化社会への対応・魅力ある学校づくり、地域のニーズという3点のねらいのもとに、老人介護を目的とした教育、老人福祉を中心とした教育課程、介護福祉士国家試験受験資格の取得という教育目標をかかげて教育をおこなっている。

教員は看護の免許をもった教員が2名、福祉の教員が2名、実習助手が2名である。

(2) 入学に関して

平成6年の入学生40名中7名が中退した。その主な理由が入学前にもっていた自分のイメージと現実との差による精神的苦痛であった。改善策として体験入学で授業だけでなく特別養護老人ホームによる体験を取り入れたり、宿泊研修などを行うようにしたい。

昨日体験入学参加生徒数は250名。41人入学した生徒の内体験入学参加生徒は全体の約5割程度であった。8割程になるように努力していくつもりである。

(3) 今後の課題

感染症に感染する危険性を考え保険への加入をすすめていくべきである。

2 内容

岐阜県立大垣桜高等学校長 酒井 玲子

(1) 学校の概要

生徒数女子110名。男子8名。教員は家庭科の教員が3名、非常勤講師として医師、看護婦に来てもらっている。

(2) 授業、実習内容等について

福祉の夢を3年間持続できるような1年の夏

平成8年度 全国高等学校長協会家庭部会 福祉科高等学校長会 事業報告

期 日	活 動 内 容	備 考
5月23日(木)	北海道大会に向けて その他	第1回理事会 家庭部会事務局会議室
7月24日(木) 7月26日(金)	総会(北海道大会)の開催	主管校 釧路星園高等学校 24日 第2回理事会 25日 総会・講演会等 26日 研究協議会等 参加者 106名
12月19日(木)	北海道大会報告書の刊行	A4、300部、34P (うち、写真4P)
1月27日(月)	文部省訪問	状況報告他 (会長)

上記のとおり報告します。

平成9年10月8日

会長 井上 輝之

平成9年度 全国高等学校長協会家庭部会 福祉科高等学校長会 事業計画

期 日	活 動 内 容	備 考
5月22日(木) 10:00~12:00	福井大会に向けて (研究協議会の持ち方要望書等)	第1回 学科主任代表者会議 (家庭部会事務局会議室)
5月22日(木) 13:30~16:30	・役員の選出について ・要望書の作成について ・福井大会に向けて ・平成10年度開催地区について (九州地区)	第1回理事会 (家庭部会事務局会議室)
7月8日(火)	「社会福祉基礎」第1回公開授業 指導 大橋謙策 先生	函館大妻高等学校(北海道) 参加者 52名
7月中旬	文部省訪問	7月14日(月) 理事会・家庭部会事務局長・会長 平成10年開催地区決定 (主管校 宮崎県立門川農業高等学校)
9月2日(火)	第2回公開授業	一関第二高等学校(岩手県) 参加者 60名
10月7日(火) 5:30~17:30	第2回理事会 第2回学科主任代表者会議	福井大会会場 (勝山ニューホテル)
10月8日(水)	福井大会 第1日 (総会・講演・研究協議会 等)	講師 大橋謙策 先生
10月9日(木)	福井大会 第2日 (研究協議会 等)	
11月	文部省・厚生省訪問	要望書の提出 (会長 他)
11月11日(火)	第3回 公開授業	岡山女子高等学校 (岡山県)
1月中旬	福井大会報告書の刊行	A4、300部、40P (うち、写真4P)

上記のとおり提案します。

平成9年10月8日

会長 井上 輝之

休み初日にボランティア講習会を開いている。

社会福祉実習の費用については1日1人2510円、施設使用料として1日700円全て県費である。ホームヘルパー同行実習等については現在県へ働きかけている最中である。

(3) 進路について

ほぼ希望通り就職ができており施設側の評価も高い。施設では有資格者には1人5000円程度の手当がついているようである。

(4) 学科運営上の諸問題について

ホームヘルパー同行実習中の交通事故問題がある。保険への加入をすすめる方向で検討中である。

感染症対策についても今後の検討課題である。

3 出口

山口県立久賀高等学校長 舩本 昭夫

(1) 学校の概要

高齢化の非常に進んだ地域にある学校である。教員は看護教諭を3名採用し円滑に学科運営が進むようになった。

(2) 進路指導について

県内に130ほどの関係施設があるが、その施設全てに求人の有無の確認を行っている。県教委、県福祉部との連携も密にしている。

生徒がボランティア活動などを通して自主的に就職先を開拓してくるということも少なくない。

体験入学等を通して、できるだけ目的意識を高め入学させ、必ず全員国家試験を受験させるようにしている。

(3) 今後の課題について

要望書を早期に提出して頂き、早く実現していけるようにする必要がある。

質疑応答

(福岡久留米筑水)

酒井校長先生にお聞きしたい。

ホームヘルパー1級取得に関する指導について社会福祉実習の費用について、実習に関わる事故に対する保険料について3点についてお願いしたい。

(岐阜大垣桜)

ホームヘルパー1級は決められた時間数を修めれば与えている。実習費用については全部で246万2400円が全て県費で支払われている。保険については1人300円~500円程度の生徒負担でできる保険に来年度から加入させていくつもりである。

(菅野)

進路の問題について何か意見はないか。

(北海道置戸)

北海道でも福祉科がどんどん増えている。生徒は遠くから通学しているが卒業したら必ず現地で就職させるという前提で就職先を拡大している。現在は就職に困るということはないが先行きは不安である。

(静岡吉田)

福祉コース20名の卒業生のうち就職は2名のみで残りは全て進学した。進学してより勉強したいという生徒が多いことと、保母の資格を取得したいという生徒が非常に多いことを反映している。

(新潟西川竹園)

酒井校長先生にお聞きしたい。非常勤講師としての医師、看護婦への報酬はどのようになっているのか。

(岐阜大垣桜)

医師は5000円台である。

(埼玉不動岡誠和)

平成6年度からはすべて教員でおこなっている。それ以前のことについては分からない。

現在寮母さんに一人来てもらっているが普通の非常勤講師よりは高いようである。

(菅野)

明日は本日の発表や協議テーマをもとに柱だてをして意見交換をしていきたい。

平成8年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計決算報告

収入決算額 645,211円
支出決算額 546,339円
差引残高 98,872円

1 収入の部(単位:円)

科目	予算額	決算額	比較増減(△)額	摘要
会費	485,000	495,000	10,000	年会費 5,000円×99校
繰越金	25,511	25,511	0	
雑収入	10,700	124,700	114,000	預金利子(¥284)・主管校より(¥97,086)・報告書(¥27,330)
合計	521,211	645,211	124,000	

2 支出の部(単位:円)

科目	予算額	流用増減(△)額	予算現額	支出額	残金	摘要
総務費	187,017	39,194	226,211	226,464	△ 253	
会議費	40,000	0	40,000	36,817	3,183	理事会 年2回
印刷費	10,000	0	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅費	87,017	0	87,017	88,017	△ 1,000	事務局総会派遣費 (交通費・日当・宿泊費等)
通信費	50,000	39,194	89,194	91,630	△ 2,436	報告書郵送270円×120校(理事他を含む)・案内郵送等
事業費	295,000	0	295,000	319,875	△ 24,875	
報告費	270,000	0	270,000	293,550	△ 23,550	A4版、34頁・写真21点 表紙コットン系300部製作
印刷費	0	0	0	20,000	△ 20,000	
総会補助費	0	0	0	6,325	18,675	写真
雑費	25,000	0	25,000	0	0	
予備費	39,194	△ 39,194	0	0	0	
予備費	39,194	△ 39,194	0	0	0	
合計	521,211	0	521,211	546,339	△ 25,128	

上記の通り、報告いたします。

平成9年10月7日

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長 井上輝之

監査の結果、適正に処理され相違ないことを認めます。

平成9年5月22日

福祉科高等学校長会監事 本田良夫
(千葉県立松戸矢切高校)

平成9年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計予算書

1 収入の部(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
会費	555,000	485,000	70,000	年会費 5,000円×111校
繰越金	98,872	25,511	73,361	
雑収入	30,000	10,700	19,300	預金利子・報告書等
合計	683,872	521,211	162,661	

2 支出の部(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
総務費	225,100	187,017	38,083	
会議費	40,000	40,000	0	理事会 年2回
印刷費	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅費	75,100	87,017	△ 11,917	事務局1人分総会派遣費(交通費・日当・宿泊費等)
通信費	100,000	50,000	50,000	案内、報告書等郵送
事業費	395,000	295,000	100,000	
報告費	350,000	270,000	80,000	A4版、40頁・写真21点 表紙コットン系300部印刷
印刷費	20,000	0	20,000	
総会補助費	20,000	0	20,000	
雑費	25,000	25,000	0	封筒印刷・写真(フィルム、焼き付け)
予備費	63,772	39,194	24,578	
予備費	63,772	39,194	24,578	
合計	683,872	521,211	162,661	

上記の通り、提案いたします。

平成9年10月7日

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長 井上輝之

主任部会・研究協議会（その1）

10月8日(水) 14:30~17:00

〔学科設置校分科会〕

万葉（2階）

司会進行 池田 延己
松本 寿子

一、社会福祉実習におけるケアプランについて

福岡県杉森女子高等学校教諭 堤 昌子
「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定され10年を迎え、施設現場では介護福祉士の有資格者が多くなっている。介護に関する社会的ニーズがますます高まる中で、本校における社会福祉実習での介護計画（ケアプラン）指導を報告する。

1. 高等学校の教育課程における施設現場に対応できる専門性の組み入れについて

高齢者が安全で苦痛なく一日一日を送れる様に一人一人に必要な介護計画（ケアプラン）策定の基本的な据え方や内容を理解させ、介護職としての資質や能力を育成する。

2. 介護計画（ケアプラン）の指導の実際

(1) 1年時（1週間）

体験学習で老人福祉施設の現場を理解する。

(2) 2年時（2週間）

基本的な学校での介護学習を施設現場においてどのように応用していくかを考え、利用者に応じた介護援助の実践を深める。

16の日常の介護項目を実践する。（資料1）

① 介護対象者を一人決めてケアワークの全体観察

- ② 介護対象者の状態観察
- ③ 状態観察をもとに留意点をまとめる。
- ④ 介護の手順をイメージ計画する。
- ⑤ 介護実践
- ⑥ 自己評価・実践記録
明日への介護実践につなげていく。

(3) 3年時（4週間）

自分で実践課題を決め、総合的な介護援助の実践を深める。

① 利用者個人の情報収集

利用者のニーズを把握するためには必ず必要とする。

② 収集した情報の分析

施設既存のケース記録等をも参考にすることが守秘義務はおこたらない。

③ 介護計画の立案

介護目標を決め具体的援助方法を考える。

④ 介護計画の実施

- (イ) 指導者の指導、助言のもとに行う。
- (ロ) 生命の安全が基本であるから直接的な介助の失敗は許されないので予習をしっかりする。
- (ハ) 疑問点については、必ずメモし、自問しながら、介護学習の上達を計る。

⑤ 評価、修正、記録

- (イ) 利用者のニーズに合わない介護は修正して適切な介護目標をたてる。
- (ロ) 「安全、安楽」に配慮できたか。
- (ハ) 事前の実習計画、実践と所感、ケースの2通りを記録する。

3. 今後の課題

- (イ) 高等学校卒の良さを生かし、豊かな心と人間性を大切に教育実践を深める。
- (ロ) 生徒が無理なく介護計画を立てられる事を配慮した社会福祉実習の実践をつみあげる。

二、社会福祉援助技術の授業の実践について

千葉県立松戸矢切高等学校教諭 清水 幹夫
福祉教養科の設置5年目でスタッフは、学科長、家庭科教員の3名で38単位を進めている。

1. 教育課程

科目	学年			本校			職業人養成			福祉系進学		
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
社会福祉基礎	2			2	2			2	2			2
社会福祉制度			2	2				2	2		2	2
老人介護		2	2	4	2	2		4				
社会福祉援助技術	2	2		4	2	2	4	2	2	4	2	2
社会福祉実習		3	3	6		3	3	6			2	2
社会福祉演習			2	2				2	2			2
看護基礎医学	2	2		4	2	2		4	4			4
基礎看護		2	2	4	2	2		4		4		4
成人看護			2	2				2	2			2
計	6	11	13	30	8	11	11	30	6	8	8	22

2. 理科教育及び産業教育審議会・千葉県教育委員会より出されている指導目標と指導内容

指導内容

対人援助に関する知識と技術を習得させ、社会福祉の充実に寄与する実践的な能力と態度を育てる。

指導内容

- ① 対人援助技術の理論
発達心理学やカウンセリングの方法論を踏まえてケースワーク論を学習する。
- ② ケースワークの実際
- ③ グループワークの基礎理論
集団によって問題解決
- ④ グループワークの実際
具体的な事例に基づき、問題発見、問題整理、問題解決の能力を高める。
- ⑤ 手話、点字技術の習得
障害者の生活実感を踏まえ学習する。
- ⑥ 福祉機器の種類とその操作
(イ) 障害者の福祉機器利用の状況を踏まえ、その種類使用方法について概略的に学ぶ
(ロ) 車イスについては試乗して操作方法について具体的に学ぶ
- ⑦ レクリエーションワークの理論と実際
障害者や高齢者の生きがいと社会参加を進めるに際しての有効なレクリエーションワークプログラムを身につける。
- ⑧ 地域組織の方法の理論と実際
(イ) 在宅福祉サービスの実施に当たって必要

な、地域組織方法の理解と実際について学ぶ。

- (ロ) ボランティア活動の推進、団体の組織化、在宅福祉サービスの推進等の具体的事例から問題発見、問題解決の能力を高める。

指導上の留意点

- (イ) 福祉施設、社会福祉協議会等との連携を行い効果的な実習を行う。
- (ロ) ケースのプライバシーの保護を図る。
- (ハ) シュミレーション教育や視聴覚教育は発展的な学習となるよう工夫する。
- (ニ) レクリエーションワークやグループワークについては、2～3時間連続授業ができる様に、時間割作成で配慮する。

3. 本校の実践

1年次——55時間

- ① 援助技術を考える。
- ② ケースワークの歴史、機能展開
- ③ 実技（ベッドメイキング、車椅子等）

2年次——60時間

- ① ケースワーク、
- ② 地域援助技術
- ③ 実技（おむつ交換、電法、足浴）

4. 集団援助技術について

クラス経営を生徒に参加させることにより、集団援助のコツを理解し、話し合いにより問題解決していく。（担任と教科担当が同じである）

三、国家試験（介護福祉士）に関わる対策と指導の実際について

山口県立久賀高等学校教諭 山本 泰史
全国的に高齢化が進み、老人介護等の福祉ニーズに対応していくため知識と技術を身につけた人材の育成を主眼に福祉科を設置して、6年目に入る。

定員35名、男女共学

1. 教育目標

- ア. 福祉、家庭、看護に関する専門科目を修め、介護福祉士国家試験の受験資格を取得
- イ. 卒業時に取得できる資格
介護福祉士国家試験受験資格
ホームヘルパー一級

2. 介護福祉士国家試験の対策と指導について

- ① 国家試験合格状況（過去3年間）
平成6年35.4% 平成7年43.4%
平成8年49.4%
- ② 生徒への意識づけ
- ア. 社会福祉施設の見学を一年次に2回、
2年次に1回行う。
施設実習は、2年次で2週間、3年次
で3週間行う。
夏期休暇を利用して、生徒は自主的に
施設実習やボランティア活動に参加
- イ. 3年生では全員介護福祉士の国家試験を
受験することを目標にする。
- ウ. 学習到達度や生活状況の把握（実習ノー
トより）
- エ. 卒業生からの体験談の紹介
- ③ 国家試験に向けての具体的指導
- ア. 課外授業 イ. 朝の小テスト
ウ. 実力テスト エ. 業者テスト
オ. 問題集作成 カ. 二次試験対策
- ④ 卒業生への対応
- ・不合格して卒業した生徒の学習場所等の
提供
・福祉施設へ就職した卒業生との情報交換
- ⑤ その他、地域との交流
- ・山口県社会福祉研修所での各種講座に参
加
・近隣の福祉科高校との情報交換
・福祉関連企業からの情報の入手
3. 問題点と課題
- ・大学、短大、専門学校への進学については、
推薦入学又、指定校推薦を行う。
・介護福祉士の資格は、就職の条件にならな
い
・福祉科専門教科の指導者不足
・生徒が理解しやすい教科書の選定
今後、安定した福祉科教育を進めていくた
めにも、余裕のある教育活動をしていきたい。

質疑応答

- （静岡女子）
・MDSにそったケアプランでなくてもよいのか。
・アセスメント学習で独自のシートがあるか。
・実習後のまとめについていかにしているか。
（杉森女子）

- ・ケアプラン、アセスメント学習は、通り一辺の
ことしかできない。シートはつかっていない。
・実習中の記録は、教師が目を通した後、施設へ
かえしている。
（司会）
アセスメント学習で独自のシートをつかっているのは静岡女子のみである。
（不動岡誠和）
近隣高校との情報交換はどの様にしているか。
（久賀）
・3校が持ちまわりで行い、参加者は旅費等のこ
とで2～3人である。
・学校の現状、国家試験対策が主な議題である。
（吉田）
・学習施設での介護計画等、寮母さん等の理解を
得て、指導を受けているか。
・実習施設の確保はどうしているか。
・福祉科生の進学についてどの様にしているか。
（杉森女子）
・毎日実習後、寮母を交えて反省会をしている。
・短大、専門学校生等の実習時期をはずしている。
施設とのコミュニケーションを取るとよい。
（久賀）
・指定校推薦をお願いしている。
（司会）
・福祉系高校の推薦枠の確保を文部省への要望書
の中に入れてある。
・H8全国福祉系高校のアンケート集計の中に、
推薦枠のある主な大学があがっている。
（高浜）
・国家試験の合格率をあげるにはどうするか。
（杉森女子）
・特に成績のあがらない生徒に“熱き心”で接す。
（司会）
・中央法規等の問題集を中心に行う。
・手話、点字の授業について、
（松戸矢切）
・手話、点字は障害者とのコミュニケーションで
あるので大事である。
（大垣桜）
通訳に役立っている。興味をもつ。
（静岡女子）
手話を使って各種行事に参加している。

（上野商業）

手話、点字の授業はボランティアの人に入っ
てもらっている。

（杉森女子）

聴覚障害者の理解をもって手話を入れないとコ
ミュニケーションがとれない。

（八海）

福祉科の教師以外の教師が担任をもった時の教
師間のコミュニケーションはどうするか。

（松戸矢切）

福祉科の基本方針、経営を理解してもらう。

〔コース等設置校分科会〕

特別会議室（5階）

司会進行 矢幅 清司

保住 芳美

研究協議テーマ

1. 手話・点字等の援助技術の授業について
神奈川県立高浜高等学校 渡邊 努
- (1) 福祉教養コースについて
平成6年に神奈川県で初めての福祉コース
として発足。幅広く福祉を学ぶと共に、体験
交流を通じて福祉の心を育てることを目標と
している。取得できる福祉関係の資格はない。
福祉専門科目（3年間で10単位）
①福祉基礎1・2学年各2単位 内1単位点字
②福祉演習2・3学年各2単位 手話
③福祉実習3学年2単位
- (2) 点字の学習（平成9年度より実施）
「福祉基礎」の一部として、点字を行って
いる。赤十字点訳奉仕団の役員が非常勤講師
として勤務。小集団学習の形態で1クラスを
2分割し、教諭を各1名配置している。教科
書は日本点字図書館刊、本間一夫編著「点訳
のしおり」を購入。毎授業後、打った点字用
紙を提出し、次回の授業時に採点し返却する。
定期テストはせず、提出点字紙の評価を中心
に各学期10段階、学年5段階としている。生
徒の反応はおおむね良好である。
- (3) 手話の学習（平成7年度から実施）
「福祉演習」として、障害をもつ人々との

コミュニケーション手段の習得をめざして手
話の基本の学習を行っている。年間5～6回
平塚ろう学校聴覚障害者との交流会を行って
いる。指導教員は神奈川県ろうあセンターか
ら推薦を受け、非常勤講師として勤務。授業
形態は小集団学習で1クラスを2分割し、指
導教員と常勤講師を各1名配置し、学期ごと
に交替している。教科書は全日本ろうあ連盟
刊「新し話教室」初級（2年）・中級（3年）
を使用。各学期期末テストのみ行い、読み取
りと論文で行っている。成績は各学期10段階
学年5段階評価としている。生徒の反応は、
概して好評である。「手話通訳士」「手話通訳
者」の資格取得を目指している生徒が2割ほ
どいるが、現在資格取得は二十才からとなっ
ている。

部活動として手話コミュニケーション部が
あり、生徒の中に強度難聴者がいるため、集
会や卒業式での手話通訳、高校生関係行事で
の手話通訳・交流会などを行っている。

最後に手話は手段であり、いざという時に
使えるようになるのが鍵である。障害者団体
の行事に手話通訳として、活躍する予定であ
る。また、資格を取らせたい。

2. 普通科福祉コースの充実をめざして
石川県立金沢伏見高等学校 平野 優
- (1) 人間福祉コースの理念と目標
平成7年に男女共学となり、人間福祉コー
スが発足する。介護福祉に限定せず、資格取
得に縛られない福祉と保育、医療と看護とい
う対人サービスをまとめて、福祉と考え「人
間福祉」とする。出口はあらゆる方面の進路
保障を行う。看護医療系と福祉保育系に分け
る。障害者から高齢者まで地域住民の健康保
障、発達保障を目指して、豊かな福祉社会を
作る。バリアフリー、ネットワーク社会を作
ることをめざす。
- (2) 専門教科と普通教科のバランス
看護医療系は理系の普通教科を大幅にとる
ようにしながら福祉も選択する。福祉保育系
は文系を中心とした福祉を取るように二つの
選択肢を作り、普通教科の系統的学習による
基礎学力保障の上に専門教科（10単位）を指

導する。

(3) 担当教師の教科と意識

家庭科に加重負担をかけずに、普通教科の内容の中に福祉的内容を入れ多様なアプローチをする。教員を各コースに所属させ、個人の力量にまかされないよう間口を広げ、学校内ケアマネージメントを作っていく。

(4) 学校行事と福祉教育の連携

修学旅行での福祉体験、文化祭、全校集会、ボランティア行事の参加、金沢大生とのディベートなど学校行事も福祉との連携をとっている。

(5) 多様な進路保障

福祉保育系（文系）と看護医療系（理系）へのいろいろな方面から教科指導、補習・勉強合宿・模擬試験の開発や職業・資格・上級学校調べを徹底して行う。多様な進路保障、自己決定、自己選択ができるようにしている。

(6) 進路開拓と中学への広報

全教職員による広報活動を全県下を回って行っている。様々な取り組みが評判を作り、志願状況も定員割れだったが、95年度入試では2.42倍、96年度2.08倍と高率。体験入学にも320人が来た。

(7) 地域や生徒に合った教科書・教材作り

現在、「社会福祉基礎－共生社会の確立を目指して」は金沢大学の井上先生と作り出版。「老人介護」は自校で作成。「社会福祉制度」を作成中。

最後に、広い進路保障を行っているので、理学・作業療法士が一番多く、言語療法士、看護婦、社会福祉士、介護福祉士、薬剤師、教員など多様な広い進路保障をし、広げると志願者が増え、偏差値も上がる。指定校も増えているが、普通教科教員の理解が難しく、進路指導重視の中、ボランティア、共生への参加をしていくのは大変ではあるが、共生社会や人権教育をわすれてはいけない。

3. 介護福祉コース設置に当たって

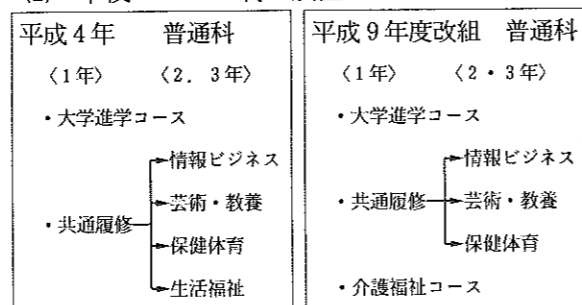
岡山県美作高等学校 明楽 俊應

(1) 本校の概要

平成4年に「普通科・生活福祉コース」を設置した。平成9年に当コースを「普通科・

介護福祉コース」と改組し、介護福祉士国家試験の受験資格・ホームヘルパー2級が取得可能なコースとした。介護福祉コース69名（男子11人、女子58人）

(2) 本校のコース制の設置



「介護福祉コース」を設置した理念は、高等学校の福祉教育を狭く職業教育の範疇でとらえるのではなく、普通教育の一貫として、将来、福祉を支える人材の育成を中心に考え、設置する。

(3) 介護福祉コース開設後の状況

- ① 69名入学（定員40名募集） 2クラス
 - ② 教育課程（専門教科時間）
 - 1年 家庭一般(2)、社会福祉基礎(2)
老人介護(2)、基礎看護(2)
 - 2年 家庭一般(2)、援助技術(2)
福祉実習(3)、看護医学(2)
老人介護(2)、基礎看護(2)
 - 3年 被服(2)、食物(2)、福祉実習(3)
援助技術(2)、看護医学(2)
福祉演習(2)
成人看護・住居より選択(2)
 - ③ 専門科目担当教員は教諭2名（社会科教員、保健体育科教員）、非常勤講師4名（社会福祉士、介護福祉士、看護婦）
 - ④ 使用教科書・副教材（1年生）
 - 絵で見る介護（福祉教育カレッジ）、社会福祉基礎（中央法規）、基礎看護（メヂカル）、社会福祉小六法（ミネルヴァ）、介護福祉用語辞典（中央法規）、社会福祉士養成講座①③⑦⑫⑬（中央法規）、
 - ⑤ ボランティア活動として、車椅子整備、行事への参加など行っている。
- (4) 「施設実習」依頼訪問
2年次の6月15日より2週間の予定で依頼

し、ボランティア活動の受け入れも依頼する。

(5) 今後の問題点・課題

- ① 国家試験対策をどのようにするか。
- ② 卒業後の進路対策
- ③ 介護福祉コース入学後、違和感を持つ生徒の指導や低学力生徒の指導に悩んでいる。
- ④ 専門科目の内容が高度で難解であり、指導に苦慮している。
- ⑤ 経済面での負担の増大（施設設備人件費等）

質疑応答

（美作）

福祉の教員を募集しているが、見つからない。（岡山女子）

社会福祉協議会に社会福祉系の大学出身者を紹介してもらった。

（三井）

金沢伏見高校の他のコースの競争率はどうか。定員割れしたのに高い受験率になったのはどのような取り組みをしたのか。カリキュラムはどのようになっているのか

（金沢伏見）

倍率は普通コース3倍以上、人間福祉コース6倍、自然科学1.67倍と上位は400を越える。

カリキュラムは、10単位で1年時必修で社会福祉基礎(2)、2年時必修老人介護(2)、家庭(2)、選択で看護医学(2)か基礎看護(2)、3年時援助技術(2)、社会福祉演習(2)、家庭(2)、保育(2)、食物(2)、社会福祉演習(2)と専門教科も取れるし、入試普通科目もとれるようセット化している。

広報活動はカラフルなポスター、パンフを使って県下の中学校へ方針等の話をした。

各学校の取り組み

（西和賀）

今年、初めて卒業生を出す。地域から要望された学科で地域のバックアップもあり、実習もやりやすい。デンマークへ福祉研修として、選抜で1週間行っている。学力の幅が大きい。ホームヘルパー2級が取得できる。半分が福祉系施設へ就職。（多良木）

初めて卒業生を出す。短大や高専へ進学し、評価も上々。今年40名定員で27名しか来ない。受験生を増やしたい。来年ホームヘルパー3級資格取

得を考慮中。福祉実習では生徒は充実して帰ってくるが、病院の職員から何を学ばせたいのか、見学だけでいいのではとも言われる。

（城山）

社会福祉基礎、基礎看護などを2年に始めている。福祉実習はしていないが、教員1名だけなので大変である。

（三井）

福祉科設置の高校が3つ近くに集まっている。設置目標は福祉の心を育て、進学を目指していた今年、1期生を出し、進路状況は上々であるが、まだ、学校の方向性が出ていない。福祉の専門教員がいないので、指導に困っている。

（金沢伏見）

石川県は平成9年度の教員採用試験の募集教科に「福祉科」が盛り込まれ、現在数名着任している。我々は県教委にこのような人材が欲しいと要望している。

（砺波女子）

福祉マインドで進めている。ホームヘルパー2級を取得できる。家庭科教員が指導にあたっているが、難しい。社協のホームヘルパー養成講座に毎週水曜日に参加している。受講料はテキスト代だけである。

（御宿）

平成6年度学科改編により、家庭科を普通科とデザイン科に分け、普通コースと福祉コースどちらかを選択する。ホームヘルパー2級が取得できる。来年度、1年生で取れるように県から指導を受け実施する。教育庁承認の形を取っている。

（八千代）

福祉教員が今年採用試験に盛り込まれ、来年度赴任予定。社協でホームヘルパー3級を取得。社協の職員から、高校教育は資格取得を目標としているのではないと言われる。閉鎖的地域で3学年だけ施設実習するようになる。就職も介護福祉士なら採りますと言われる。2年生でコース選択となるが、生徒指導が大変である。コースで福祉を学ぶ役割としては、福祉のエキスパートとなる基礎的なものを育て、上級学校で福祉の専門性を学ぶように進路指導する。福祉の心を育てていく。また、他の学科へも福祉の理解を深めていくよう努力しなければならない。

校長部会・研究協議会（その2）

10月9日(休) 9:00~10:00

光琳（2階）

司会進行 菅野 純孝
本田 良夫

（司会本田）

昨日の研究協議会で時間がたらず十分話しができなかった山口県立久賀高等学校長の舩本先生の話も含めて本日の協議には行っていきたい。

（山口久賀）

福祉部門で働きたいという強い意欲を持って入ってきた生徒たちに就職先にしろ進学先にしろ出口がないのでは全く意味がない。

福祉を生涯学習としてとらえ、たとえ福祉の部門で働かなくてもどこかで生かされればそれで良いという考え方と現実問題とのはざ間とで非常に悩んでいるところである。本日の協議のテーマとして取り上げていただきたい。

（本田）

研究協議内容を問うアンケートを行なったところ一番多く書かれていたのが福祉科の専門教員の確保という問題であった。それについて意見をお聞かせ願いたい。

（日南農林）

中学生の施設での体験学習において入浴体験等も実施されているが施設の理解、中学校との連携が重要になってくる。また、体験学習をして実際に入ってみて自分の考えと違うという場合もある。その点について井上会長にお話しをお聞きしたい。

また、実習にかかる様々な経費について本校の場合生徒負担であるが岐阜県の場合、初めから県費負担であったのかどうかという点について酒井校長先生にお聞きしたい。

卒業生の出口の問題についても意見をお聞かせ願えるとありがたい。

（井上会長）

本校は19の施設で実習をおこなわせてもらっている。その内の2、3の施設で中学生の体験学習を行わせてもらっているが受け入れには好意的

ある。

福祉科希望者は200人を超え、2倍以上の倍率がある。

2、3年生の実習を通して施設との連携を深めている。

中学校との連携については本校の教員が何度も足を運び関係づくりをしているというのが現状である。

（岐阜大垣桜）

設置段階で必要な経費を申請したところすべてその通りを通った。ホームヘルパー実習の謝礼については今後県に働きかけていきたいと考えている。

出口の問題については平素から地域活動に積極的に参加するようにしている。

（本田）

福祉の就職についてはあきがあったら採るといふ形が多いので就職の決定時期については保護者の方にも了承を得ている。

（井上会長）

先程の補足として、本校では中学生に授業体験をしてもらっている。これにより割とスムーズに施設での体験学習に入っていけるようである。また2年に1回施設長を学校にまねき社会福祉実習連絡協議会というものを開いている。

（新潟西川竹園）

新潟県の状況について報告させていただきたい。本校は看護基礎医学を医者に頼んでいるが単位認定の関係上、県との話し合いの上で担当の教員とチームティーチングのような形で対応している。報酬については時間単価7300円である。

実習経費については1人当たり約1万円程の補助をもらっている。しかし、教科書代が高く生徒の負担は大きい。

今年新潟県では八海高校に家庭科とは別枠で福祉科教員を1名採用した。来年度も1名程採用という方向で動いている。できるだけ早く教員の免許制度を整えていく必要がある。

（宮崎日南農林）

宮崎県においても新潟県同様、県への強い申し入れの結果福祉科教員の採用の方向で動いている。

生徒の質問に家庭科教員では対応しきれないことや研修も期間が限られており十分な知識も身に

つけにくいということもあり今後も現場から県へ強く要望していくことが必要である。

（岩手久慈農林）

養護教諭が看護基礎医学等の授業に入っている学校があるのかどうか、採用に際して施設側ほどの程度資格を要望しているのかこの2点について意見を聞きたい。

（福岡久留米筑水）

看護基礎医学など専門教科については全て看護免許を持った教諭で対応している。養護教諭では授業はできないので研修や試験等をうけてもらい看護免許を取ってもらおう。

看護免許を持っている教諭と家庭科の福祉の免許を持っている教諭とでは実体験の差があり、その差が生徒の実習態度の差として現われてくるため力点は看護の免許を持った教諭の採用ということでやっている。

（本田）

本校では非常勤講師を2名お願いしているが、国家試験に関する様々な情報等も提供してもらえ非常にありがたく思っている。

もう一つの出口の問題で採用条件に関する問題について井上会長にご意見をお願いしたい。

（井上会長）

埼玉県においては採用時の介護福祉士の資格の有無については全く問題にしておらず、持っているからプラスになるということはない。

熊本県は資格の有無でかなり給料面で差がでるという話を聞いたことはあるが埼玉県では現在のところ採用時の資格にはなっていないというのが現状である。

（新潟西川竹園）

本校では今年の春、始めて卒業生を出したが32名中専門性を生かして就職したのは2名のみであとは短大、福祉関係の専門学校等に進学した。

高校レベルでは新しい就職先を切り開くことは難しく、短大、専門学校等の生徒と競合するような現状である。さらに就職協定廃止により高卒者の就職はますます厳しい状況になる。

（本田）

千葉県においても資格の有無についてはほとんど関係ない。ただ資格を持っていれば手当てとして5000円つく。

（山口久賀）

千葉県のほうで救急救命士養成校ができるという話を聞いたのだが情報があれば教えていただきたい。

専門学校等の生徒との競合については、求人票の問題等学校の枠内を考えると難しい問題もあり悩んでいるところである。

（井上会長）

専門学校は実習時間も長く実力その他だけを比較されれば高校の福祉科は頑張らなければならない。

介護業務に1番必要なのは若さである。専門学校生と比較して2年の若さは介護業務の中で絶対に必要なものである。18才で介護業務にたずさわることができる。この2年間の若さが介護業務に与える影響は非常に大きいはずである。

これからは、専門学校に対応していくためにも高校福祉教育のプラス面をきちんとつかんでおくことが必要になってくるのではないかと思われる。

（兵庫新宮）

兵庫県のほうでは介護福祉士の資格を取得したら優遇するという方向になってきている。

専門学校の学習内容と本校の学習内容を比較してみると専門学校よりもむしろ、本校の内容のほうが良いように感じる。

専門学校の方は国家試験免除で高校のほうが受験しなければいけないというのは多少不公平なような気がする。

（本田）

介護は体力がいるが、その点について何か配慮してやっている学校があるかどうかお聞きしたい。また、その他何かあれば意見をお聞かせ願いたい。

要望として、総合学科が独立し福祉の加盟校として多数あるようである。総合学科では学科主任という名称はないので、学科主任等という名称に変えれば良いのではないかと思うので、その点について井上会長をお願いしたい。

（井上会長）

貴重な意見をいただきありがとうございました。現在検討しているところであるので、いただいた意見を参考にしながら検討していきたい。

主任部会・研究協議会（その2）

10月9日(木) 9:00~10:00

万葉（2階）

司会進行 落合 光男
阿部 剛康

（司会 落合・阿部）

議題は、昨日寄せられた11項目の質問についての情報交換、来年度の宮崎大会への要望、その他である。

（司会 落合）

昨日の質問事項（8校で11項目）について確認しながらすすめていきたい。まず、各学校においては、どのような福祉関係の研修会に参加しているかについて発表してほしい。

（不動岡誠和）

地域で実施しているヘルパー介護教室へ参加している。

（司会 落合）

大学の聴講生として研修された人はおられるか（金沢伏見）

金沢大学大学院の福祉政策研究科で週2回授業をうけている。実技担当教員も同大学医学部保健学科で勉強している。

（司会 落合）

そういう場合の手続きはどうしたらよいか。

（金沢伏見）

私学の先生は、理事会を通す。公立の先生は教育委員会へ校長からお願いしてもらう。

（千葉御宿）

学校長の推薦をしてもらって週2回程度、千葉淑徳大学で福祉関係の科目を履修した。

（司会 落合）

福祉科の学級担任として工夫していることはあるか。

（八海）

1ヶ月に1回程度学級だよりを作って、学校の様子を保護者にもわかってもらうようにする。実習時の様子や生徒の感想などをのせる。

（司会 落合）

学校の様子を父兄だけでなく、出身校（中学校）にも配ったことがある。

（奈良榛原）

生徒が当番制で学級新聞を1ヶ月に1回出す。手話や福祉の本の紹介などをのせ、情報をわかち合う。

（司会 落合）

担任をしていて苦労した点はないか。自分の経験では生徒が部活動との両立で苦しんだり、体力の面で自信をもてない生徒がいて苦労した。

（上野商）

他の先生方の協力が得られなかった。新聞を発行して、保護者や校内の先生方、福祉科の生徒へ配布する。内容は、福祉科の活動内容や、行事、手話、点字コーナー、ボランティア情報をのせる。細々と何かを続けていくことが大切である。

（司会 落合）

総合学科、社会福祉系列の設置されている学校でホームヘルパー1級を養成している学校はどの位あるか。

・1級取得の学校 26校

・2級取得の学校 10校

（沖縄陽名）

総合学科で2級を取得することになっている。

（司会 落合）

ホームヘルパー校外実習の謝礼はどの程度か。又、財源の捻出はどうしているか教えてほしい。

（静岡吉田）

県費で生徒1人当り1日1000円

（山形山辺）

無料

（司会 落合）

無料の学校はその他の位あるか。

・13校挙手

（司会 落合）

県費の方向へと考えている学校はあるか。

・8校挙手

（司会 落合）

自己負担の学校はどの位あるか。

・5校挙手

（函館大妻）

自己負担で1日2000円

（司会 落合）

基礎看護と老人介護の内容は重複することが多いが連携はどうしているか。

（三重上野商業）

重複することは多いがそれでもよいのではないか。基礎看護と老人介護の連携を密にすることが大切である。

（不動岡誠和）

基礎看護は介護技術の内容を行い、老人介護では障害形態別介護技術を行う。

（山形山辺）

基礎看護の先生と老人介護の先生との情報交換を行う。基礎的な技術は基礎看護で行い、老人介護につなげていく。

（司会 落合）

卒業生の悩みなどのフォローはどうしているか（静岡女子）

卒業生が多く来てくれる。来校ノートで情報交換をする。実習先にいる卒業生に在校生のことをお願いしながらコミュニケーションをとる。

（司会 落合）

全員が国家試験をうけるのではなく、3年生で選択するカリキュラムをとっている学校を知りたい。

（吉田）

生徒の希望にあわせて、3年生になったら生徒の進路に応じた弾力的なカリキュラムは組めないものかと考えている。

（川崎）

2年生から福祉系と教養系かを選択する。教養として福祉を身につけたいという生徒や、OT、PT、看護職を希望している生徒もいる。

（司会 落合）

宿泊を伴う実習を実施している学校はあるか。

・2校挙手

（岩手一戸）

夜勤実習はしない。利用者が起床する前から、入眠するまでの実習である。実習中、先輩方の「生の声」を聞くと生徒達は進路意識や学習意欲がわくようである。

（司会 落合）

B型肝炎の抗原、抗体検査を実施している学校はどの位あるか。

・2校挙手

（司会 落合）

福祉人気で入学してきた生徒は、そのまま続けていけるのが今後心配であるという質問があったが、時間の関係でここまでとする。

（司会 落合）

宮崎大会について特に希望したいことはないかについて。

1. 公開授業を展開して欲しい。（17校から希望あり）

2. 研究テーマについての希望

コースと科別に分けてよかったので、宮崎大会でもこのような方法でよい。

来年度の研究発表の依頼については、是非、こちらよく受けて欲しい。

（司会 落合）

その他について何かないか

（函館大妻）

全国福祉科高校基礎調査と実態調査を10月末までに解答をお願いしたい。

（司会 落合）

橋口先生に感想をいただきたい。

（橋口先生）

カリキュラムの中で各先生方が色々な工夫をされ、努力されていて勉強になった。10年前のカリキュラムであるので、だんだんと無理になってきている点があるので、検討が必要だと思っている。今後は、実習時間をもっとふやしてあまり必要と思われない科目は選択制にするとかの見直しを考えている。希望があれば校長会を通して欲しい。

（司会 落合）

今後、新しい時代の中で柔軟な対応がされていくと思う。ありがとうございました。

部会報告・指導講評・閉会行事

10月9日(木) 10:00~12:00

万葉・光琳（2階）

司会進行 井川 博己

〈部会報告〉 10:10~10:50

校長部会報告

本田良夫（千葉県立松戸矢切高等学校長）

「福祉科の諸問題について」という研究協議テーマのもと福祉科の抱える様々な問題について議論がなされた。

中学校との連携の必要性や実習施設への謝礼に関する意見などがでた。その中でも特に議論がなされた問題は生徒の出口の問題である。

現在、福祉系の大学、短大、専門学校等が増えている中で、今後就職先の競合が考えられる。いかに生徒の就職先を確保していくかがこれからの課題であるとの意見などがでた。

福祉科の専門教員確保の問題にもふれ、様々な議論がなされた。時間がなくて十分な議論ができなかったというのが本音ではあるが、今後検討していきたい。

主任部会報告

井戸川浜子（宮崎県立日南農林高等学校）

学科設置校分科会では、授業や指導の実践報告をもとに高校生のケアプランの必要性、手話、点字等の指導方法、国家試験対策について意見がでた。その中でも特に国家試験対策については関心が高く、合格しそうでない生徒たちをあきらめずに指導していくこと、教師が生徒たちに対して熱い心で指導していくことが大切であるとの意見などがでた。

コース等設置校分科会では、授業の中だけでなく様々な活動を通して手話を実践している学校や学校独自のテキストを作成し指導にあたっている学校等の発表があった。

それぞれの学校の特色もあり、抱えている問題も違えどお互いの意見を参考にしながら頑張っていくということで閉会した。

〈指導講評〉 10:50~11:30

文部省初等中等局職業教育課企画調査係長

伊藤 嘉規先生

この2日間で様々な課題がしめされてきたが、それと関連して現状における国の動向について若

干説明をしたい。

平成9年10月1日に国の諮問機関である理科教育及び産業教育審議会から「今後の専門高校における教育の在り方等について」という報告がだされた。理科教育及び産業教育審議会、通常理産審と呼んでいるが文部大臣の諮問をうけ審議会の委員が諮問の内容について審議し答申する。その内容は国の政策に大きく影響するものである。

理産審ではこれまで11回の検討を重ねてきたが併せて中央教育審議会、教育課程審議会等の関係審議会の審議の動向にも配慮した。

専門高校における現状と課題ということで3つの課題と5つの基本的方向をしめしている。具体的内容については今後検討が必要である。

社会の変化に適切に対応していくため新たな教科の創設の必要性が述べられ、とりわけ高齢化への対応として「福祉」という専門教科の必要性が書かれている。しかし、その具体的内容についてはふれておらず様々な課題が考えられる。

学習内容、完全学校週5日制の下での職業資格取得の問題など関係省庁とともに今後検討していきたいと考えている。

今後の専門高校における教育は生涯学習の視点にたち継続教育ということをふまえて学習内容を変えていく必要がある。継続教育においては短大や専門学校等への移行がスムーズにいくようにしていくところが問題となっている。

今後も審議を重ね来年の秋頃には答申をだす予定である。この報告によりある程度の方向性はしめられたと考えている。現状で起きている課題等については今後もいろいろな知恵をおかりして検討を重ねていきたい。

厚生省社会・援護局施設人材課資格試験係長

橋口 真治先生

福祉人気に支えられて予想以上に介護福祉士人気が高まり現在10万人を超える登録者がいる状況である。短大、専門学校等にも介護福祉士養成課程を設置するところが増えてきている中で教員確保の問題や実習施設等の問題もでてきている。

今現在全国で約253ほどの短大、専門学校等の養成課程があり、さらに今後50ほど増える予定である。

高校福祉科では国家試験を受験するというところである程度の質については安心しているところがある。介護福祉士の質の向上をはかるためにも学校のカリキュラムなども見直したほうが良いのではないかという意見や定期的に試験をもうけるといった意見等も出始めている。この点については今後も検討していきたいと考えている。

介護福祉士の水準を上げて専門性を増したほうが良いのか、誰でも取れる資格としたほうが良いのか様々な意見が出てきているが、20世紀の福祉を担うという責任重大な使命を生徒ともども見守っているという自覚をもとにこれからも努力を願いたい。

厚生省のほうでも福祉の構造改革を含めて各種施策等々努力しているところであるので今後もよろしくお願したい。

〈閉会行事〉 11:30~12:00

1 開会のことば

宮崎県立門川農業高等学校長 岩村 隆博

2 主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会理事長

青木 爽

福井大会は内容が非常に充実しており活気に満ちあふれた大会であったと思う。その理由として2つの理由があげられる。

その1つは、校長部会と主任部会とが同時に並行して実施されている点だと考える。今後もそれぞれの立場とその良さを理解して共に進むことが重要である。

2つ目は、時代の流れからくる福祉教育の重要性がある。理産審の中間まとめでも「福祉」という新しい教科創設の方向性がしめされ、平成9年は記念すべき年になるといえる。そういった意味でも福井大会は記念すべき大会である。

この成果をそれぞれの学校にもち帰り、自校の教育に反映して生かして欲しい。

全国福祉科高等学校長会会長

井上 輝之

平成9年度、10年度の福祉科高等学校長会の役

員を理事会の承認のもとで決定した。

福祉科問題については光が見えてきたとはいえまだまだ課題が多い時期である。理事の先生方、学科主任の先生方の御協力を得て、福祉科教育の充実と発展のため頑張っていきたい。

2年に1回要望書を各関係省庁に提出していくことを検討した。今後、できるだけ早い時期に要望書を提出していきたい。

高校の福祉科教育の充実について、完全学校週5日制に伴う授業時間等の問題、国家試験に関わる問題、介護福祉士の地位など様々な内容について指導していただきながら各関係省庁に提出していきたい。

福祉科教育の全体の充実と発展にそれぞれの学校で努力していただければありがたい。

来年度は九州大会でお会いできることを期待している。それまでは日々こつこつと地味な努力をお願いしたい。また、様々なデータが今後必要となってくる。そのアンケートにも是非御協力願いたい。

3 次期主幹校あいさつ

宮崎県立門川農業高等学校長 岩村 隆博

4 主管校あいさつ

福井県立大野東高等学校長 前田 孝

5 閉会のことば

岐阜県立大垣桜高等学校長 酒井 玲子

福井大会を終えて

福井県立大野東高等学校（主管校）
校長 前田 孝

平成9年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会第三回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会福井大会を勝山の地で開催しましたところ、多数のご参加をいただき盛会のうちに終えることができました。

この大会も今回の福井大会で三回目を迎えたわけですが、「三」という数字は一つ、二つ、三つ、つまり満つるということに通じます。石の上にも三年というように福井大会を一つの節目にしていただけならと思います。

私は研究主題となっている「高等学校福祉教育の充実と発展を目指して」にあるとおり、福祉科の振興と発展を願う者として、福井大会を新たな出発点として位置づけたいと思います。そして、今後もこういう会を積み重ねていき、いつのときも初心を忘れず、油断をしないで精進していかなければと思っています。この場合、「油断をする」言い換えると「油を断つ」ということは“気の緩み”や“不注意”ということではなく、油が切れれば文字通り“光”を失うということです。

今後、それぞれが学校現場に戻って「心の油」即ち、福祉科への情熱と意欲を高めて“光”の成果を期待したいものです。そのためにはこれからも福祉科高等学校長会を中心に連携を密に、そして、お互いを高め合う情報交換に努め、組織としても向上を図っていくことが大切だと考えています。この第三回福井大会が、このようなことを確認する大会であると位置づけただけならば大きな喜びです。

最後に静岡県三島高等学校、北海道釧路星園高等学校、全国家庭部会の青木理事長、堀内事務局長、全国福祉科高等学校長会の井上会長、そして理事および監事の皆様、加えて不動岡誠和高等学校事務局、さらに北信越地区の方々、会員の皆様にはご協力・ご支援・ご鞭撻を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。皆様には、不行届きがあったにもかかわらず、ねぎらいのお言葉をいただき、たいへん恐縮しています。

来年は、九州の宮崎県で開催されますが、再びそこでお会いできることを楽しみにしています。

本当にありがとうございました。

主管校の学科主任として

福井県立大野東高等学校
福祉教養科主任 小林 香代子

第2回の北海道大会参加中、次年度は本校がと意識しつつ、これだけ立派な運営ができるだろうかとも心配でした。釧路から帰校後、早速準備に入りましたが、1年間があっという間に過ぎて大会当日を迎えました。

校内では全国大会に向けて4月に準備委員会を発足させ、福祉科以外の先生方にも協力を依頼して準備が始まりました。準備にあたっては白紙の状態だったので、各関係方面に問い合わせながら手探りの準備でした。第3回という節目の大会なので有意義な大会にしていだけるような運営を目指して、5月の学科主任代表者会議と理事会に始まって、加盟校への開催要項送付、補助金の依頼、実施要項の作成、会場との打ち合わせ等々の準備を進めてきました。

最初、本校が位置する奥越地区は大きい会場がなく心配していましたが、ほぼ会場に入れる申し込み数であったため、何とか開催できる運びとなりました。しかし、主任部会をコース等設置校と学科設置校分科会に分けたいという要望があり、会場がとれるかどうか不安でしたが、希望人数により会場の都合がつき、2つに分けることができました。

このように心配なことはありましたが、大会当日、全国の先生方をお迎えしてからはお会いできた喜びで、楽しみながら運営していくことができました。多くの先生方からお声を掛けていただいたり、お話しできたりと主管校でない味わえない喜びを感じました。また、学科主任代表者会議にも参加できて、代表者の方々の福祉教育に対する熱い想いに触れ、とても良い刺激を受けました。

大会は皆様のご協力を得てスムーズに進行し、様々な成果をあげて終了できたと思います。いろいろとご迷惑をお掛けしたにもかかわらずご協力いただき、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、全国家庭部会事務局、全国福祉科校長会事務局の不動岡誠和高校、釧路星園高校の先生方にはたいへんお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

加盟16校増え111校に

福井で全国福祉科高校長会

全国高校校長協会家庭部会福祉科高校長会（井上輝之会長）は10月8・9両日、福井県・勝山ニューホテルで第3回総会、研究協議会、学科主任研究協議会（福井大会）を開き、75校から校長44人、学科主任71人の計115人が参加した。

開会行事には、文部省から河野公子視学官、伊藤嘉規係長、厚生省から橋口真治・福祉人材対策室係長、地元から上中良仙・県審議監らが来賓で出席、青木爽・家庭部会長と井上輝之会長が主催者あいさつした。

講演では大橋謙策・日社大教授が「子供・青年の生きる力と福祉教育・ボランティア活動…高校福祉科の未来を考える」をテーマに、対人関係、自己表現能力が脆弱化傾向にある青年状況を指摘、福祉活動による体験的実践

の意見は大きいとし、豊かに生きる自分さがしこそ21世紀の福祉教育の根幹と示唆した。

同会にはこの1年間に16校が新たに加わり、公立88校、私立23校の計111校（国家試験有資格64校）となった。学科主任代表者会議の発足を始め、準教科書の編集・発行、公開授業の開催（函館大妻、一関第二、岡山女子各高）など、多くの要望に応える活動が進められており、年1回の同大会は全国で実践されている研究活動の発表の場として、活気を帯びるものとなった。

来年度は7月23・24両日、宮崎県で開かれる。

（「福祉新聞」平成9年11月10日

より転載）

公開研究授業報告

函館大妻高等学校 福祉科主任

池田 延己

1. はじめに

時代のニーズや地域の要望などから「福祉科」や「総合学科」、「コース」といった形で、福祉科目を導入する高等学校が相次いで設立されているが、高校生向けの教科書はなく、主として介護福祉士養成の専門学校で使用しているものを教科書として使用してきた。

今春、待望の「高校生が学ぶ社会福祉シリーズ全9巻」の第1巻「社会福祉基礎」が刊行され、全国の高等学校で使用が開始された。同時に、テキストを使った授業の進め方を研究しよう、多くの教師にとって未開拓分野である福祉教育を勉強しようと、福祉科校長会の主催と中央法規出版の後援で、監修・編著された日本社会事業大学の橋本謙策教授を講師に迎えて、先生の福祉に対する思い入れや熱いメッセージを込めた公開授業が、函館大妻高等学校・岩手県立一関第二高等学校・岡山県岡山女子高等学校の3か所で実施された。今後の授業にすぐ役立てることができる、大好評を博しながら本年度分を終了した。

2. 第1回公開研究授業

(この項の執筆者：田中芳博先生)

- (1) テーマ：地域自立生活支援と在宅福祉サービスのあり方
(社会福祉基礎第6章)
- (2) 会場：函館大妻高等学校 大講堂
- (3) 実施日：平成9年7月8日 (火)
- (4) 対象：福祉科1年43名
- (5) 参加者：高等学校16校、短大1校、専門学校1校、養護学校1校、小学校1校、函館市役所
(参加者合計52名)
- (6) 授業内容
生徒がどのような社会福祉認識、障害者意識を有しているかを第一のねらいとし、かつ

それらの認識に対応してどのような展開をすればよいか、その際の授業内容はどうかあるべきかという考え方から、生徒との発問法を中心に授業が展開された。

①障害を有している人に対してどんなイメージを抱いているか、障害者というとどんな人を想像するか、②自立とはどんなことなのか、障害者は自立しているか、③社会福祉施設はどのような生活の仕方をしているところか、両親が寝たきりになった時、特別養護老人ホームを利用するか、④在宅福祉サービスの考え方とすすめ方、在宅福祉サービスは自立生活の支援が目的といった、四つのテーマを取り上げ、生徒を指名しての発問が繰り返された。

4月に入学して月日も浅く、福祉が何たるかも知らない1年生だが、一緒に人間としてのあり方を考えていこうとする、身近な質問に素直な自分の気持ちを述べていった。

各テーマをまとめると、①「障害者は特別な人なのか」では、眼鏡による矯正は、他の障害の矯正と何が違うのかということなど、広い視野で考えることを学んだ。②では、重度な障害がありながらも頑張っている札幌いちご会の小山内美智子さんなどを例に社会的レベルから見ると、障害自立を妨げるのではなく、多くの偏見が自立の妨げとなっていることを考えさせられた。③では福祉従事者として「自分の心を開くには」ということを食事に例え、路上生活者の食事も高級レストランの食事でも食べなければならない。そこには信頼関係の形成がなければならないこと。また、自分を成長させるには色々な価値観の違った人と接することが必要である。それは、自分の視野を広げることにつながるなど、人間としての生き方を例に授業が展開された。最後の④のテーマでは、施設福祉と在宅福祉は別々のものではなく、在宅においても施設で提供されているサービスを受けられることが本来の姿ではないか、と施設福祉から在宅福祉へ移行ではなく、地域福祉のあり方を学んだ。

(7) 生徒の感想(抜粋)

○ 自分も眼鏡をかけているということで障

害者だと言われびっくりした。そんな間違っただけの考えを変えていきたいと思った。

(水島 佑湖)

○ 老人も障害者も健常者もすべての人たちが一緒に暮らし、お互いに何かを求め合うことができるという考えが大切だということが判った。
(砂子間 恵)

○ 今回の講義を聞き、質問に答えて、初めて自分の考えが通用したように思えた。また、少し福祉に対する考えが変わり、もっともっと知りたいと思うようになりました。
(布施 梢)

3. 第2回公開研究授業

(この項の執筆者：矢幅清司先生)

- (1) テーマ：バリアフリー社会の創造と私たちの人間感・生活感
(社会福祉基礎第9章)
- (2) 会場：岩手県立一関第二高等学校
- (3) 実施日：平成9年9月2日 (火)
- (4) 対象：福祉教養科2年40名
- (5) 参加者：高等学校22校、社協・施設関係6
(参加者合計60名)
- (6) 授業内容

障害者や高齢者が地域自立生活を送る上で、社会的にバリアがあることを外圧的に知的に理解するだけではなく、自分自身の身の回りに同じようなバリアがあることを理解し、バリアフリー社会を創造することは私たちの人間感・生活感を見直し、個人の尊厳を尊び、人間性を尊重し、一人一人の自己選択、自己決定、自己責任の原理に基づく社会システムを構築することであることを理解させながら、特に“心のバリアフリー”に焦点をあてて授業が展開された。

①自分が生きる上で何かバリアになったと実感したものがあつたか、あるとすればどのようなバリアだったか、②身近にいる高齢者や障害者が体に不自由があるために、どんなことが社会生活上不便を感じていると思うか、③妊娠している女性や乳母車を利用している親たちにはバリアはあると思うか、④車椅子マークのついたトイレがあると思うが、どこ

にあるか知っているか、そのトイレを使用したことがあるか、使用しない理由、使用するのはいけないことか⑤競争して勝つことによるような思いをもっているか、⑥あなたの目の色は何色かといった、6つの柱で発問が繰り返された。

バリアフリー社会というどうしても段差の問題など物理的生活環境の整備のあり方に目が行きがちになる。障害者を特別視するような障害者専用思想を克服しなければならない。これら社会生活上のバリアの問題を解決していくためには、どのような生活環境を整備するののかの視点や、何が社会生活上のバリアになるのかの視点、“きずき”が重要であり、それが“心のバリア”とつながっていることを、たくさんの例をあげながら生徒と対話を積み重ね、「まずみんなの中にある心のバリアについて考える必要があるのでは」と指摘していた。

(7) 生徒の感想(抜粋)

○ もっといろんなお話を聞きたいというのが今の心境です。福祉を今まで以上に勉強してみたいという意欲がわいてきました。

(小野寺美香)

○ 今まで私が思っていた福祉とは違った印象を持つことができました。自分の価値観を見直すいい機会になりました。

(加藤 理恵)

○ 先生のお話を聞いて、今まで身近であっても気が付かなかったバリアフリーを発見することができました。(佐々木 恵)

4. 第3回公開研究授業

(この項の執筆者：保住芳美先生)

- (1) テーマ：ボランティア活動と福祉コミュニティづくり(社会福祉基礎第10章)
- (2) 会場：岡山県岡山女子高等学校
- (3) 実施日：平成9年11月11日 (火)
- (4) 対象：社会福祉科社会福祉コース2年40名
- (5) 参加者：高等学校38校、社会福祉協議会3
(参加者合計78名)
- (6) 授業内容

21世紀の社会福祉の展開には、制度的社会福祉サービスのみならず、住民参加による福祉コミュニティづくりが必要であること、また、そのためには住民のボランティア活動の推進が必要であることを理解させ、生徒が認識しているボランティア活動とその概念砕きをしつつ、慈善ではなく、博愛の精神で社会的活動に主体的に取り組む意味について関心と理解を深めさせるため、高校の授業ではまだ余り取り入れられていないKJ法を用いて授業展開がなされた。

まず、生徒を4～5人のグループに分け、配付したカード1枚に一つのボランティア活動のイメージを記入させる。次にそれぞれのグループの代表に板書するよう指示したのだが、いきなり質問されるよりグループになっているし、カードに書くだけなので心に余裕をもって書けたようだ。また、代表者もそれぞれのカードを集め、持って出て板書すればよいので、気後れすることなく生き生きと板書していた。

①町内会の役員や消防団の団員はボランティアか、②赤い羽根に募金することはボランティア活動か、③地域で話しのできる大人を、学校の先生、親以外に何人いるか、④高齢者が長らく生きた地域を離れ、子ども達の住んでいるところに移住することをどう思うかなどの概念砕きの発問についても、またカードに記入すればよく、だんだんと活発になっていった。

次に、各自の席で発表したのだが、あらかじめカードに書いてあるので、あわてることなく読めばよいので、発表の声も小さくならず、全員ははっきりと自分の考えを発表していた。

生徒自身、今まではただ座って授業を聞いているだけの状態が多かったのに、どんどん意見が発表でき、たくさんの他校の先生方の中にあっても憶することなく、本当に自分達が授業に参加しているのだという喜びを感じているようだった。私自身前で見ている、生徒たちの表情がだんだん明るく生き生きとしてくるのに驚かされてしまっていた。

(7) 生徒の感想(抜粋)

○ ボランティア活動は、時間のある人とかお金に余裕のある人にしかできないものだと思っていました。授業を受けてみて、ボランティア活動は、誰にでも簡単にできる活動だということを知りました。

(猪原美保)

○ 先生が私たちの意見を取り入れて授業をして下さったので、いつもの授業よりもおもしろく充実していました。ボランティアについて考え方が変わりました。90分があったという間でもう少し聞きたいと思いました。

(岩井亜希子)

○ 先生に「障害者でもボランティアができますか?」と質問されたとき、私は重度であればできないと決め付けていましたが、自分で積極的にやろうという気持ちがあればできるのではないかと考え直しました。

(岡野恵里加)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約

平成7年10月12日施行

(総 則)

第1条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。

第2条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉科教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第3条 本会は全国の福祉科(福祉科に準ずる)を置く高等学校の校長で組織する。

第4条 本会は次の地区を設ける。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 北海道地区 | 6. 近畿地区 |
| 2. 東北地区 | 7. 中国地区 |
| 3. 関東地区 | 8. 四国地区 |
| 4. 北信越地区 | 9. 九州地区 |
| 5. 東海地区 | |

(事 業)

第5条 本会の目的を達成するために年1回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

(役 員)

第6条 前条の事業を行うために本会に次の役員を置く。

- | | | | |
|-------|--------|-------|----|
| 1. 会長 | 1名 | 3. 監事 | 2名 |
| 2. 理事 | 各地区 1名 | | |

第7条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。

第8条 役員の選出方法は次のとおりとする。

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 理事は各地区ごとに総会で選出する。 | 3. 監事は会長が委嘱する。 |
| 2. 会長は理事の互選とする。 | |

第9条 役員の任期は2年とする。但し再任は妨げない。

第10条 本会の事務局は会長高等学校に置く。

(会 計)

第11条 本会の経費は会員の会費で支弁する。

(付 則)

第12条 この規約は平成7年10月12日から施行する。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
北海道	1	私	函館大妻高等学校 〒040 函館市柳町14-23	福祉科	外山茂樹 0138-52-1890	池田延己 0138-52-1892
	2	村	留寿都高等学校 〒048-17 虻田郡留寿都村字留寿都179-1	農業福祉科	内田重雄 0136-46-3376	島村真幸 0136-46-3386
	3	道	置戸高等学校 〒099-11 常呂郡置戸町字置戸256-8	生活福祉科	堀江健二 0157-52-3263	三林礼治 0157-52-3263
	4	市	釧路星園高等学校 〒085 釧路市武佐4-28-10	教養福祉科	井川博巳 0154-46-1538	荒川公子 0154-46-1538
	5	町	剣淵高等学校 〒098-03 上川郡剣淵町栄町6213	農業生活科	水戸部洋二 016534-2549	志賀聡 016534-2694
青森	6	私	東奥学園高等学校 〒030 青森市勝田2-11-19	福祉科	大久保貢 0177-77-2760	田中泰恵 0177-75-8375
	7	私	光星学院高等学校 〒031 八戸市湊町字上新井田道8	保育福祉科	中村キヤ 0176-33-4151	田端利則 0176-31-6287
岩手	8	県	西和賀高等学校 〒029-55 和賀郡湯田町19-25-2	普通科	西俊六 0197-84-2809	近藤健一 0197-84-2844
	9	県	一関第二高等学校 〒021 一関市赤萩字野中23	福祉教養科	菅野純孝 0191-25-2241	矢幅清司 0191-25-5432
	10	県	久慈農林高等学校 〒028 久慈市門前36-10	福祉教養科	徳田石男 0194-53-4371	浅川義人 0194-53-2540
	11	県	一戸高等学校 〒028-53 二戸郡一戸町一戸字詩前60-1	福祉科	齊藤文雄 0195-33-3042	佐々木徹 0195-33-3933
	12	県	岩谷堂高等学校 〒023-11 江刺市館山4-47	総合学科	佐々木昭治 0197-35-1911	阿部和子 0197-35-4677
宮城	13	県	村田高等学校 〒989-13 柴田郡村田町大字村田字金谷1	総合学科	熊谷安男 0224-83-2275	日吉ふく子 0224-83-2276
秋田	14	県	大館桂高等学校 〒017 大館市餅田2-3-1	普通科	高橋元 0186-49-1010	成田多美枝 0186-49-1011
	15	県	西目高等学校 〒018-06 由利郡西目町沼田字新道下2-142	総合学科	伊藤甫 0184-33-2203	小松富美子 0184-33-2203
	16	県	雄勝高等学校 〒019-01 雄勝郡雄勝町下院内字小白岩197-2	普通科	松野隆 0183-52-4355	高橋道子 0183-52-4356
	17	県	増田高等学校 〒019-07 平鹿郡増田町増田字一本柳137	総合学科	佐藤良治 0182-45-2073	佐々木勝子 0182-45-2088
	18	組合	合川高等学校 〒018-42 北秋田郡合川町下杉字中島54-2	介護福祉科	谷口賢一郎 0186-78-3177	増山裕弘 0186-78-3178
19	県	湯沢北高等学校 〒012 湯沢市湯ノ原2-1-1	生活科学科	杉治男 0183-73-5168	小松田絢子 0183-73-5169	

(Noの 印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
山形	20	県	山辺高等学校 〒990-03 東村山郡山辺町大字山辺3028	福祉科	細谷壽守 0236-64-5462	奥山留美子 0236-64-5462
	21	県	庄内総合高等学校 〒999-77 東田川郡余目町大字廿六木字三ツ車8	総合学科	知野弘 0234-43-2138	渡部美恵子 0234-42-1273
福島	22	県	光南高等学校 〒969-02 西白河郡矢吹町田町532	総合学科	勝間田敏男 0248-42-2205	遠藤則宏 0248-44-3373
	23	県	川口高等学校 〒968 大沼郡金山町大字川口字蛇沢2434-2	普通科	懸田弘訓 0241-54-2154	日下部文紀 0241-54-2240
茨城	24	県	古河第二高等学校 〒306 古河市幸町19-18	教養福祉科	齊藤二郎 0280-32-0444	萩原明子 0280-31-6602
	25	県	八千代高等学校 〒300-35 結城郡八千代町大字平塚4824-2	普通科	豊崎功 0296-48-1836	林まち子 0296-48-3201
栃木	26	県	真岡北陵高等学校 〒321-44 真岡市下籠谷396	教養福祉科	山口祐司 0285-82-3415	荒井智子 0285-83-4634
	27	県	塩谷高等学校 〒329-23 塩谷郡塩谷町大宮2579-1	社会福祉科	藤田貞夫 0287-45-1101	堀江久子 0287-45-0986
	28	県	氏家高等学校 〒329-13 塩谷郡氏家町大字氏家2807	総合学科	絵面征志郎 028-682-4500	半田郁子 028-682-0358
埼玉	29	県	不動岡誠和高等学校 〒348 羽生市大字神戸706	社会福祉科	井上輝之 0485-61-6651	佐藤恵子 0485-60-1051
千葉	30	県	松戸矢切高等学校 〒271 松戸市中央矢切54	福祉教養科	本田良夫 047-368-4741	清水幹夫 047-368-4396
	31	県	御宿高等学校 〒299-51 夷隅郡御宿町久保1528	普通科	石毛昭洋 0470-68-2911	丸ひさ子 0470-68-6886
東京	32	都	大泉学園高等学校 〒178 練馬区大泉学園町9-1-1	普通科	芹川一巳 03-3924-3185	前田朋乃 03-3924-9411
	33	都	南高等学校 〒143 大田区中馬込3-11-10	普通科	菅根宗平 03-3774-0373	田村祥子 03-3774-0325
神奈川	34	県	神奈川総合高等学校 〒221 横浜市神奈川区平川町19-2	普通科	神倉正 045-491-2000	熊本ヒロ子 045-491-3190
	35	県	綾瀬西高等学校 〒252 綾瀬市早川1485-1	福祉教養科	勝田文隆 0467-77-5121	對比地晃 0467-76-8199
	36	県	高浜高等学校 〒254 平塚市高浜台8-1	普通科	山田孝祐 0463-21-0417	渡邊努 0463-23-7138
	37	市	川崎高等学校 〒210 川崎市川崎区中島3-3-1	福祉科	国吉卓 044-244-4981	戸塚千年 044-211-8295
	38	県	津久井高等学校 〒220-02 津久井郡津久井町三ヶ木272-1	普通科	山口信郎 0427-84-1053	吉田和正 0427-84-7960

(Noの 印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
新潟	39	県	八海高等学校 〒949-66 南魚沼郡六日町大字余川1276	福祉科	五十嵐 駿介 0257-72-3281	小野塚 美代子 0257-72-8878
	40	県	高田北城高等学校 〒943 上越市北城町2-8-1	生活文化科	動山 勝 0255-22-1164	小池 玉枝 0255-26-1579
	41	県	新井高等学校 〒944 新井市田町1-10-1	総合学科	松井 浩 0255-72-4151	京谷 淳子 0255-72-7529
	42	県	西川竹園高等学校 〒959-04 西蒲原郡西川町大字鱸2-1	生活文化科	丸山 敬 0256-88-3131	沢栗 正子 0256-88-2172
富山	43	県	八尾高等学校 〒939-23 婦負郡八尾町福島213	生活福祉科	林 吉之 0764-54-2205	桐井 優子 0764-54-2205
	44	県	砺波女子高等学校 〒932-01 小矢部市清水95-1	生活福祉科	浜本 純雄 0766-61-2040	加賀谷 恵子 0766-61-8255
	45	県	有磯高等学校 〒935 氷見市鞍川1056	生活福祉科	山達 六夫 0766-74-0229	鈴木 八重子 0766-74-0228
石川	46	県	金沢伏見高等学校 〒921 金沢市米泉町5-85	普通科	樋田 忠雄 076-242-6175	平野 優 076-242-7458
	47	県	田鶴浜高等学校 〒929-21 鹿島郡田鶴浜町上野ヶ丘59	健康福祉科	山田 邦男 0767-68-3116	永井 和美 0767-68-2351
	48	県	柳田農業高等学校 〒928-03 鳳至郡柳田村字柳田イ部3	生活科学科	松岡 元雄 0768-76-1211	高宮 恵子 0768-76-0079
福井	49	県	大野東高等学校 〒912 大野市友江9-10	福祉教養科	前田 孝 0779-66-4610	小林 香代子 0779-66-5577
	50	私	福井女子高等学校 〒910 福井市文京4-15-1	福祉科	荻原 芳昭 0776-23-3489	定兼 絃美 0776-21-2922
長野	51	県	上田千曲高等学校 〒386 上田市中之条626	生活福祉科	香山 昇久 0268-22-7070	高橋 加代子 0268-23-5370
静岡	52	県	吉田高等学校 〒421-03 榛原郡吉田町片岡2130	福祉科	小澤 巖 0548-32-1241	福嶋 みちる 0548-32-7831
	53	私	三島高等学校 〒411 駿東郡長泉町竹原354	福祉科	小崎 祥道 0559-75-0035	松本 寿子 0559-76-0735
	54	私	静岡女子高等学校 〒422 静岡市八幡3-6-1	福祉科	疋田 宏 054-285-2274	佐藤 完 054-282-2757
愛知	55	県	高浜高等学校 〒444-13 高浜市本郷町1-6-1	福祉科	丹羽 幹太 0566-52-2100	鋤柄 由美子 0566-52-7059
	56	県	宝陵高等学校 〒441-12 宝飯郡一宮町大字大木樋水445	生活福祉科	原田 英夫 0533-93-2041	鈴木 美知子 0533-93-2826
	57	県	古知野高等学校 〒483 江南市古知野町高瀬1	福祉科	松蘭 重弘 0587-56-2508	嶋田 麻知代 0587-53-0989

(Noの 印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
岐阜	58	県	大垣桜高等学校 〒503-01 安八郡墨俣町上宿465-1	福祉科	酒井 玲子 0584-62-6131	渡部 洋子 0584-62-5608
三重	59	県	明野高等学校 〒519-05 度会郡小俣町明野1481	福祉科	中川 昌保 0596-37-4125	井田 知加子 0596-37-4127
	60	県	上野商業高等学校 〒518 上野市緑ヶ丘東町920	福祉科	鈴山 雅子 0595-21-1900	福永 敏子 0595-21-1923
滋賀	61	県	長浜高等学校 〒526 長浜市平方町三反田270	福祉科	山本 兵治 0749-62-0896	北村 哲雄 0749-65-1340
京都	62	私	聖家族女子高等学校 〒622 船井郡園部町美園町1-78	普通科	石田 一彦 0771-62-0163	藤本 美子 0771-63-0989
	63	私	福知山淑徳高等学校 〒620 福知山市正明寺36-10	総合学科	奥田 弥進夫 0773-22-3763	松下 亨 0773-23-5519
大阪	64	府	松原高等学校 〒580 松原市三宅東3-4-1	総合学科	野村 利夫 0723-34-8008	加納 明彦 0723-34-8142
	65	府	柴島高等学校 〒533 大阪市東淀川区柴島1-7-106	総合学科	中澤 隆夫 06-323-8351	井上 慎一 06-323-8237
兵庫	66	県	日高高等学校 〒669-53 城崎郡日高町岩中1	福祉科	佐伯 博文 0796-42-1133	山崎 由美 0796-42-1648
	67	県	新宮高等学校 〒679-43 揖保郡新宮町新宮27-1	福祉科	村上 紘揚 0791-75-0018	橋本 成生 0791-75-2549
奈良	68	県	榛原高等学校 〒633-02 宇陀郡榛原町下井足210	福祉科	吉川 説夫 0745-82-0525	岡野 富美代 0745-82-7606
鳥取	69	県	八頭高等学校 〒680-04 八頭郡家町大字久能寺725	生活デザイン科	武田 勝文 0858-72-0022	湯口 啓子 0858-72-0113
島根	70	県	邇摩高等学校 〒699-23 邇摩郡仁摩町大字仁万町907	総合学科	渡津 俊行 08548-8-2220	神代 大司 08548-8-4417
	71	県	益田産業高等学校 〒698 益田市高津町イ2518-1	総合学科	村尾 亘彦 0856-22-0642	青木 博枝 0856-22-0684
岡山	72	県	倉敷中央高等学校 〒710 倉敷市西富井1384	福祉科	三吉 肇 086-465-2559	丹原 百合子 086-466-2832
	73	県	吉備北陵高等学校 〒716-11 上房郡賀陽町大字湯山1028	普通科	向原 康夫 0866-54-1033	児子 文子 0866-54-0933
	74	私	美作高等学校 〒708 津山市山北500	普通科	石井 香苗 0868-22-4838	明楽 俊應 0868-24-6171
	75	私	岡山女子高等学校 〒700 岡山市下伊福西町7-38	社会福祉科	丸山 哲朗 086-252-2101	保住 芳美 086-253-0582
高知	76	県	城山高等学校 〒781-53 香美郡赤岡町1612	普通科	志磨村 幹人 08875-5-2126	曾我部 公彦 08875-5-0170

(Noの 印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住	学科名 所	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
広島	77	県	黒瀬高等学校 〒724-06 賀茂郡黒瀬町乃美尾1	福祉科	吉田 照男 0823-82-2525	黒田 京子 0823-82-2527
	78	県	世羅高等学校 〒722-11 世羅郡世羅町本郷870	生活福祉科	掛谷 春夫 08472-2-1118	羽田 善子 08472-2-5244
	79	県	吉田高等学校 〒731-05 高田郡吉田町吉田719-3	生活福祉科	田中 辰吉 0826-42-0031	児玉 美美江 0826-42-0207
山口	80	県	久賀高等学校 〒742-23 大島郡久賀町4851-2	福祉科	舛本 昭夫 08207-2-0024	山本 泰史 08207-2-0096
	81	私	中村女子高等学校 〒753 山口市駅通り1-1-1	介護福祉科	五十部 益一 0839-22-0418	河本 義満 0839-22-8063
	82	私	聖光高等学校 〒743 光市光井9-22-1	普通科	西岡 尚之 0833-72-1187	河野 江利子 0833-72-1308
愛媛	83	県	新居浜南高等学校 〒792 新居浜市篠場町1-32	総合学科	森 謙司 0897-43-6191	定岡 秀美 0897-44-7447
	84	県	北条高等学校 〒799-24 北条市辻600-1	総合学科	渡辺 福德 089-993-0333	関谷 隆 089-993-0429
	85	県	川之石高等学校 〒796-02 西宇和郡保内町川之石1-112	総合学科	福地 勝哉 0894-36-0550	酒井 賀陽子 0894-36-1994
	86	私	松山城南高等学校 〒790 松山市北久米町815	福祉科	西村 義臣 089-976-4343	堤 勢津子 089-976-4348
福岡	87	県	三井高等学校 〒838-01 小郡市松崎650	普通科	角 敏秀 0942-72-2161	中村 喬 0942-72-9064
	88	県	久留米筑水高等学校 〒839 久留米市山川町1493	社会福祉科	松尾 剛 0942-43-0461	宮本 幾子 0942-45-0143
	89	私	杉森女子高等学校 〒832 柳川市奥州町3	福祉科	中村 義行 0944-72-5216	堤 昌子 0944-72-5218
	90	私	慶成高等学校 〒803 北九州市小倉北区皿山町15-1	人間科学科	鈴木 孝顕 093-561-1331	奥 典之 093-561-4844
長崎	91	私	玉木女子高等学校 〒850 長崎市愛宕1-21-6	福祉科	岩橋 弘 095-826-6321	澤田 忠和 095-828-6837
熊本	92	県	八代農業高等学校 〒869-42 八代郡鏡町大字鏡村129	福祉教養科	森 繁巳 0965-52-0076	上野 千鶴子 0965-52-5048
	93	県	多良木高等学校 〒868-05 球磨郡多良木町多良木1212	普通科	小山 忠 0966-42-2102	瀬音 博美 0966-42-1022
	94	私	菊池女子高等学校 〒861-13 菊池市隈府1083	社会福祉科	荒木 修 0968-25-3032	中村 頌子 0968-25-3180
	95	私	城北高等学校 〒861-05 山鹿市志々岐大野原798	社会福祉科	松浦 シズエ 0968-44-5809	馬場 誠也 0968-44-0747

(Noの 印は本大会参加校)

県名	No	公私	学校名 〒番号 住	学科名 所	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
熊本	96	私	熊本フェイス女学院高等学校 〒861-41 熊本市南高江町2718	医療福祉科	米光 聖 096-357-7151	白井 基子 096-358-3044
	97	県	安蘇清峰高等学校 〒869-26 阿蘇郡一の宮町大字宮地4131	社会福祉科	増永 孝 0967-22-0045	中山 美宇 0967-22-5161
大分	98	県	山香農業高等学校 〒879-13 速見郡山香町広瀬4706	生活科学科	廣瀬 晋三 0977-75-1166	藤内 節子 0977-75-1165
	99	県	野津高等学校 〒875-02 大野郡野津町大字野津市537-1	福祉科	梶原 真蔵 0974-32-2031	藤田 泰子 0974-32-2119
	100	私	楊志館高等学校 〒870 大分市桜ヶ丘7-8	普通科	山本 忠夫 0975-43-6711	佐々木 修 0975-43-4516
	101	県	耶馬溪高等学校 〒871-04 下毛郡耶馬溪町大字戸原1663-1	普通科	酒井 広道 0979-54-2011	小野 潤子 0979-54-2519
	102	県	玖珠農業高等学校 〒879-44 玖珠郡玖珠町大字帆足160	生活科学科	兼田 公敬 09737-2-1148	飯田 元喜
宮崎	103	県	妻高等学校 〒881 西都市大字右松2330	福祉生活科	荒川 功 0983-43-0005	濱砂 美穂子 0983-43-0005
	104	県	日南農林高等学校 〒889-32 南那珂郡南郷町大字中村甲3543	生活福祉科	松井 利一 0987-64-1177	井戸川 浜子 0987-64-1177
	105	県	門川農業高等学校 〒889-06 東臼杵郡門川町大字門川尾末2680	福祉生活科	岩村 隆博 0982-63-1336	三宅 靖子 0982-63-5194
	106	県	高原高等学校 〒889-44 西諸県郡高原町大字広原4981-2	福祉生活科	前田 勝 0984-42-1010	有嶋 正恵 0984-42-1270
	107	県	加世田常潤高等学校 〒897 加世田市武田14863	生活福祉科	坂本 道應 0993-53-3600	吉村 みちえ 0993-53-3601
	108	私	加治木女子高等学校 〒899-52 始良郡加治木町木田5348	医療福祉科	桐原 祥二 0995-63-3001	島村 健二 0995-63-3002
鹿児島	109	私	鳳凰高等学校 〒897-11 加世田市唐仁原1202	医療福祉科	鮫島 克郎 0993-53-3633	釜口 休紀 0993-52-7974
	110	私	出水中央高等学校 〒899-02 出水市西出水町448	医療福祉科	表迫 勝之 0996-62-0500	川畑 博美 0996-62-6677
沖縄	111	県	陽明高等学校 〒901-21 浦添市字大平488	総合学科	名嘉山 興武 098-879-3062	比嘉 加代 098-879-9520

あ と が き (諸 連 絡)

1. 福井大会報告書(通巻3号)をお送り致します。
2. 主管校の福井県立大野東高等学校の皆様には大変お世話になりました。記録については、地域の関係高等学校の皆様にも、協力をお願い致しました。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。
3. 新しく16校が加わって、本会の加盟校は111校になります。組織力、活力共に向上の一途にあることをお喜び申し上げます。理産審の中間まとめからも、新教科「福祉」創設の気運がうかがえることは、一つの光明であり、希望に向かって邁進する本会の意義を、一層高めるものであります。
4. 「住みやすさ……日本一」の越前の地、福井県で本大会の開催をみたことも意義深く、「ひびく、ひらく高校福祉教育の出發」の現状を再認識し、改めて全体の理解を図る発信の絶好の機会となっています。人情は言うに及ばず、永平寺・蓮如・東尋坊といった歴史的風土からの声援も覚えます。出發はまさにこれからです。
5. 本大会の参加者の中から、「熱い心で」「社会的責任感を」「汗と涙の感動的な実践と努力を」等の生の声が聞かれたのも、本大会の活気を物語るものです。時間を気にしながら研究協議を重ねた状況が、今も眼に焼きついています。
6. 大橋謙策先生には、公開授業の指導と合わせて、今回の講演の講師もお願い致しました。実践と深い理解に立つあたたかさ。先生の明るい人間性に触れながら、誰もが熱い感動を覚えたことと思います。「青年の生きる力に、高校の福祉科はどのような影響を持ちうるか」「大学と高校との接点をいかに模索するか」等、私たちの眼を瞠かさせる内容の豊かなものでした。今後の高校の福祉科教育に役立てて参りたいと思います。
7. 事務局に寄せられました皆様の要望は85項目になります。それらは、文部省や厚生省への要望書、あるいは理事会並びに今年度設置をみた学科主任代表者会議に反映させております。本

大会の書籍販売コーナーの設置、主任部会における分科会の設定等も、そのあらわれです。

8. 校長会推薦の準教科書(中央法規出版)の活用も積極的に進められており、うれしく思います。「社会福祉基礎」のあと「社会福祉制度」から順に刊行になります。使いやすいという評判をいただいております。
9. 本大会の参加校は71校です。115名(校長44名学科主任等71名)の熱気は「関心と感動と努力」の高さを証するものと言えましょう。
10. 参加校のうち、ホームヘルパー1級を目指しているところ26校、2級取得を目指しているところ10校です。(総合学科で2級を目指しているところは1校です。)ホームヘルパー校外実習の謝礼は、市町村の配慮で無料になっているところが10校、他は(1000円~2000円)で、自己負担のところもあります。宿泊施設実習実施校は2校です。
11. 全国福祉科高等学校基礎調査(集計池田延己)報告書のご活用をお願いします。今後も実態基礎調査(5月)を実施していく予定でありますのでご協力下さい。
12. 本会の充実と発展を祈念申し上げます。
(事務局)

宮崎大会予告

と き 平成10年7月23日(木)・24日(金)
ところ 宮崎県立門川農業高等学校(主管校)

理事会及び学科主任代表者会議予告

と き 平成10年5月28日(木)
10時より 学科主任代表者会議
午後2時より 理事会
ところ 家庭部会事務局(東京、飯田橋駅下車)

事務局

埼玉県立不動岡誠和高等学校
〒348-0024 羽生市大字神戸706
TEL 0485-61-6651
FAX 0485-60-1051